慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	夫婦間での相互理解を高めるための夫婦ビジョン共創フレームワーク
Sub Title	A couple's vision co-creation framework to enhance mutual understanding between couples
Author	竹林, 正豊(Takebayashi, Masatoyo) 神武, 直彦(Kōtake, Naohiko)
Publisher	慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科
Publication year	2022
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 2022年度システムデザイン・マネジメント学 第495号
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40002001-00002022-0005

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

修士論文　　2022 年度

夫婦間での相互理解を高めるための夫婦ビジョン共創フレームワーク

竹林 正豊
(学籍番号：81933342)

指導教員　神武直彦

2023 年 3 月

慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科
システムデザイン・マネジメント専攻

論　　文　　要　　旨

学籍番号	81933342	氏 名	竹林 正豊

論 文 題 目:

夫婦間での相互理解を高めるための
夫婦ビジョン共創フレームワーク

要 旨:

夫婦関係の満足度については、婚姻期間の経過とともに低下していくことが明らかになっており、合わせて、夫婦間の相互理解とコミュニケーションを高めることで向上することも明らかになっている。夫婦間の相互理解を高めることは夫婦満足度の継続や向上に一定の効果があると考えられる一方、相互理解が実現できていない現状があるため、夫婦間での相互理解を高めるための適切な手法を提案する。

本研究では、企業のメソドロジーであるビジョンを活用した夫婦ビジョン共創フレームワークを提案する。夫婦ビジョンの要素を夫婦の価値観、夫婦の目的、夫婦の目標と定義し、その3つの要素を夫婦で共創するためのプロセスとツールであるワークシートを設計し検証した。フレームワークの設計は、予備調査として夫婦間の相互理解についてのインタビューや相互理解の先行研究分析を行い、機能を設定し実装した。検証では、夫婦3ペアに対してビジョン共創フレームワークを利用した１時間ほどのワークの実験を行った。実験の内容は、オンラインホワイトボードツールを利用し、まず個人ワークで自身の価値観を明らかにし、それをお互いに共有し合い、さらにその内容をもとに共同ワークで夫婦の価値観を共創する。続いて、夫婦の目的や目標もディスカッションを行いながら共創する。この実験を通し、ワークの結果やアンケートなどから、ビジョン共創フレームワークが相互効果を高めること、また夫婦の相互理解を高める行為として、夫婦ビジョン共創フレームワークに一定の有効性があることが示された。但し、目標に関しては、アンケートの評価値が低く、記述内容も似通ったものになった。これは質問が適切でなかったと考えられるため、フレームの再考が必要である。今回の検証では、3 ペアの実験であったが、今後、例えば結婚歴や子供の有無、国際的な文化の違い、職業など夫婦間の属性により、どのような違いがあり、効果がある属性やシチュエーションやタイミングを明らかにできる。さらに、機能のブラッシュアップはもちろん、オンラインサービス化を行うことで、より簡単にだれでも、繰り返し行え、保存性があり、見返すことのできるツールになると考える。また、本研究は夫婦を対象にしたが、小規模チームやプロジェクトへの応用も考えられる。個人の価値観に基づいたビジョンファーストな生き方や働き方が認められる幸福を中心とした社会の一助になるよう今後も研究を進めていきたい。

キーワード(5 語)

ウェルビーイング、相互理解、ビジョン、夫婦

SUMMARY OF MASTER'S DISSERTATION

Student Identification Number	81933342	Name	Masatoyo Takebayashi

Title:

A Couple's Vision Co-Creation Framework
to Enhance Mutual Understanding between Couples

Abstract:

With regard to marital satisfaction, it is clear that it declines with the duration of the marriage, and together with this, it is also clear that it can be improved by increasing mutual understanding and communication between the couple. While increasing mutual understanding between married couples is thought to have a certain effect on the continuation and improvement of marital satisfaction, the current situation is that mutual understanding is not being realized. Therefore, we propose an appropriate method to increase mutual understanding between married couples.

In this study, we propose a couple vision co-creation framework that utilizes the corporate methodology of vision. The elements of the couple vision are defined as the couple's values, the couple's purpose, and the couple's goals, and a worksheet, a process and tool for co-creating these three elements with the couple, is designed and tested. To design the framework, interviews about mutual understanding between the couple and analysis of previous research on mutual understanding were conducted as preliminary research, and the functions were set and implemented. In the validation, we conducted a one-hour work experiment using the vision co-creation framework for three pairs of married couples. The content of the experiment was to use an online whiteboard tool to first identify their own values in individual work, share them with each other, and then co-create the couple's values in joint work based on the content of the individual work. Then, the couple's goals and objectives are also co-created through discussion. Through this experiment, the results of the work and the questionnaire indicated that the vision co-creation framework enhances mutual effectiveness, and that the couple's vision co-creation framework has a certain effectiveness as an action to enhance mutual understanding between the couple. However, with regard to the goals, the evaluation values of the questionnaire were low and the descriptions were similar. This is thought to be due to the fact that the questions were not appropriate, and the frame needs to be reconsidered. Although this verification was a three-pair experiment, in the future, it will be possible to clarify, for example, what kind of differences exist depending on the attributes of the couple, such as marital history, presence or absence of children, international cultural differences, and occupation, as well as the attributes, situations, and timing that are effective. Furthermore, we believe that by brushing up the functionality as well as making it an online service, the tool will become easier for anyone to use, repeat, save, and look back on. In addition, although this study was conducted with married couples, it could be applied to small teams and projects. We would like to continue our research to contribute to a happiness-centered society in which vision-first ways of living and working based on individual values are recognized.

Key Word

Couples, Mutual understanding, Vision, Well-being

目次

図目次 v

表目次 vii

第 1 章　序論 8

1.1　はじめに 8

1.2　背景 8

1.2.1　幸福（ウェルビーイング）を中心とした新たな社会システム 8

1.2.2　家族および夫婦（パートナー）、結婚制度や価値観の変化 10

1.2.3　次世代組織モデル「ティール組織」と「DAO」 10

1.3　研究目的 11

1.4　本論文の構成 11

第 2 章　ビジョンの定義と関連研究 12

2.1　ビジョンの定義 12

2.2　関連研究 13

第 3 章　夫婦ビジョン共創フレームワーク 16

3.1　夫婦ビジョン共創フレームワークの提案 16

3.2　夫婦ビジョン共創フレームワークの特徴 17

3.3　夫婦ビジョンのシナリオイメージ 18

第 4 章　夫婦ビジョン共創フレームワークの設計 20

4.1　設計のコンセプト 20

4.2　予備調査と課題分析 22

4.2.1　ステークホルダーの抽出 22

4.2.2　ステークホルダーニーズの抽出 22

4.2.3　ステークホルダーニーズの分析 27

4.2.4　要求定義 27

4.3　夫婦ビジョン共創フレームワークの設計 28

4.3.1　機能設計 28

4.3.2　機能の流れ 29

4.3.3　機能と物理（フレームワーク）への割り当て 30

4.4　夫婦ビジョンフレームワークの作成 31

4.4.1　夫婦ビジョン共創フレームワークの構成 31
4.4.2　「夫婦の価値観シート」の作成 31
4.4.3　「夫婦の目的（パーパス）シート」の作成 33
4.4.4　「夫婦の目標（ミッション）シート」の作成 33
4.4.5　「導入シート」と「ラップアップシート」の作成 34
4.5　夫婦ビジョン共創フレームワークの運用 36
第 5 章　夫婦ビジョン共創フレームワークの評価 38
5.1　予備実験 38
5.1.1　予備実験の概要 38
5.1.2　予備実験の結果 38
5.1.3　改善 41
5.2　本実験 42
5.2.1　本実験の目的 42
5.2.2　本実験の評価対象 43
5.2.3　評価方法 43
5.2.4　実験結果 44
(1)　事例 1 44
(2)　事例 2 47
(3)　事例 3 49
5.2.5　事後アンケート 52
第 6 章　考察 55
6.1　実験の結果から検証および妥当性確認 55
6.2　夫婦ビジョンフレームワークの有効性 56
6.3　今後の課題 57
6.3.1　被験者数の増加 57
6.3.2　検証回数や検証期間の改善 57
6.3.3　ファシリテーション機能の実現 57
第 7 章　まとめ 58
謝辞 59
参考文献 61
APPENDIX 63

図目次

図 1. 生活満足度と一人当たり実質 GDP の推移 9
図 2. 本論文の構成 11
図 3. コリンズ・ポラス式ビジョンのフレームワーク 12
図 4. 企業ビジネスの構造とビジョンの図 13
図 5. 相互理解の３つのプロセス ［20］ 資料出所：TAN MARGARET, ESTABLISHING MUTUAL UNDERSTANDING IN SYSTEMS DESIGN: AN EMPIRICAL STUDY,2015 14
図 6.家庭のマネジメント構造 14
図 7. 夫婦のビジョン・夫婦ビジョン共創フレームワークの関係図 16
図 8. 夫婦ビジョン共創フレームワークを利用した夫婦ビジョン作成の提案 17
図 9. 企業のビジョンのフレームワーク 17
図 10. 夫婦のビジョンのフレームワーク 18
図 11. 理想のシナリオイメージ 19
図 12. 本手法の 5W1H 20
図 13. 夫婦ビジョン共創フレームワークの利用イメージ 21
図 14. ステークホルダー抽出 22
図 15. 夫婦ビジョンフレームワークを構成する要素 29
図 16. 機能フロー図 29
図 17. ビジョンの三要素と機能の対応図 30
図 18. 機能と物理の割り当て 30
図 19. 夫婦ビジョン共創フレームワークの概要 31
図 20. ワークシート 1-1 32
図 21. ワークシート 1-2 32
図 22. ワークシート 2 33
図 23. ワークシート 3 33
図 24. ワークシート 4 34
図 25. ワークシート 0-1 34
図 26. ワークシート 0-2 35
図 27. ワークシート 0-3 35
図 28. ワークシート 5 36
図 29. 夫婦ビジョンの各項目と機能の流れ、ワークシートの関係図 36
図 30. 夫婦ビジョンフレームワークの運用イメージ 37
図 31. 予備実験ワーク結果 1 38

図 32. 予備実験ワーク結果 2 39
図 33. 予備実験ワーク結果 3 39
図 34. 予備実験ワーク結果 4 40
図 35. 予備実験ワーク結果 5 40
図 36. 予備実験ワーク結果 6 41
図 37. 実験のイメージ 43
図 38. 事例 1 のワーク STEP2 の結果..... 46
図 39. 事例 2 のワーク STEP2 の結果..... 48
図 40. 事例 3 のワーク STEP2 の結果..... 51
図 41. アンケート結果のグラフ 53

表目次

表 1.関連研究 14
表 2. ステークホルダーインタビュー1 22
表 3. ステークホルダーインタビュー2 23
表 4. ステークホルダーインタビュー3 24
表 5. ステークホルダーインタビュー4 25
表 6. ステークホルダーニーズ 27
表 7. ステークホルダー要求 28
表 8. 要求と機能 28
表 9.ワークショップの設計要件※プロトタイピング後に改善 37
表 10.予備実験の概要 38
表 11.仮説 42
表 12.実験の目的 42
表 13.実験の対象者リスト 43
表 14.評価項目と方法 43
表 15.事例 1 のワーク STEP1 の結果 45
表 16.事例 1 のワーク STEP3/4 の結果 46
表 17.事例 2 のワーク STEP1 の結果 47
表 18.事例 2 のワーク STEP3/4 の結果 48
表 19.事例 3 のワーク STEP1 の結果 49
表 20.事例 3 のワーク STEP3/4 の結果 51
表 21.実験のアンケート結果（問 1-問 11） 52
表 22.実験のアンケート結果（問 12-問 16） 53

第1章　序論

本章では、著者の研究動機から始め、背景である家族や夫婦、結婚制度や価値観の変化、幸福資本主義やティール、DAO など新しい社会システムについて述べ、研究の目的を明確化し、論文の構成について示す。

1.1はじめに

著者は、パートナーと2歳になる娘がいるが婚姻関係はなく、所謂一般的な法律婚や事実婚はしていない。法律的なつながりがない代わりに、私たち夫婦、家族にはビジョンがあり、夫婦、家族をプロジェクトとして運用している。そんな筆者が、他の夫婦もビジョンを持つことで夫婦関係はどのように変化するだろうかということが本研究の動機である。

世界はインターネットで結ばれ、何かが起これば、すぐにゲームチェンジが起きる変動的で不確実な時代になった。さらには、コロナウイルス感染症や、AI 技術の急激な進化により、変動的で不確実な状況は、加速している[1]。そんな中、世界経済フォーラム創設者のクラウス・シュワブは、2021 年のダボス会議で「人々の幸福を中心とした経済に考え直すべきだ」とコメントし、従来の経済中心の社会システムから、幸福を中心とした社会への転嫁を示唆した[2][3]。このように社会が目まぐるしく変化する中、夫婦や家族も大きく形を変え始めている。男性の育児促進のための「育児・介護休業法」改正など、法の整備はもちろん、石山アンジュ氏が実践する 100 人以上からなる拡張家族や、自治体ごとではあるが同性のパートナーシップ制度、さらには婚姻している夫婦が離婚することなく、自由を認め合い、パートナーシップを継続する卒婚も近年話題にあがる[4][5][6]。

結婚が多様化する一方、婚姻した夫婦の 1/3 以上にあたる年間約 20 万件が夫婦関係を解消（離婚）している。夫婦関係の解消の原因は「男女共に相互不理解に起因する性格の不一致」が1位であり、全体の半数近い数字である[6]。そこで、筆者は夫婦間の相互理解を高めるため、企業におけるコアバリューと理念、パーパス、ミッションの3要素を可視化したビジョンに注目し、夫婦も同様にビジョンを共創することができるフレームワークを提案することにより、相互理解が高まるのではないかと考え、本研究に取り組みたいと考えた。

1.2背景

1.2.1　幸福（ウェルビーイング）を中心とした新たな社会システム

世界経済フォーラム創設者のクラウス・シュワブは、2021 年の世界経済フォーラムの年次総会（ダボス会議）のテーマ「グレート・リセット」に関連して、「第二次世界大戦後から続くシステムは環

境破壊を起こし、持続性に乏しく、もはや時代遅れだ。人々の幸福を中心とした経済に考え直すべきだ」とコメントし、従来の経済を中心とした社会システムから、幸福を中心とした社会への転嫁を示唆した[2]。

日本でも、2021 年、国民一人ひとりの幸福を測定するための指標として、「GDW（Gross Domestic Well-being／国内総充実度）」の採用が提唱された[8]。また、同年 6 月には、政府から経済・財政運営の指針として、「政府の各種の基本計画等について、ウェルビーイングに関するKPI（重要業績評価指標）を設定する」と発表され、同年 9 月には「Well-being に関する関係省庁連絡会議」も設置され、ウェルビーイングに関する取り組みが大きく推進されている[9][10]。民間でも、トヨタ自動車の「わたしたちは、幸せを量産する」や、ソフトバンクグループの「情報革命で人々を幸せに」など、経営理念やミッションに幸せを掲げる企業も多い[11][12]。日本の生活満足度と一人当たりの実質 GDP（国内総生産）の推移(図 1)は、1960 年から 2010 年までの 50 年間で、実質 GDP は 6 倍になったにも関わらず、生活満足度は、ほぼ横ばいであるというデータもある[13]。

このことからも、今後、GDP のような経済的指標を追い求めるのではなく、直接的に幸福を指標とした社会に変わっていくことが予想される。

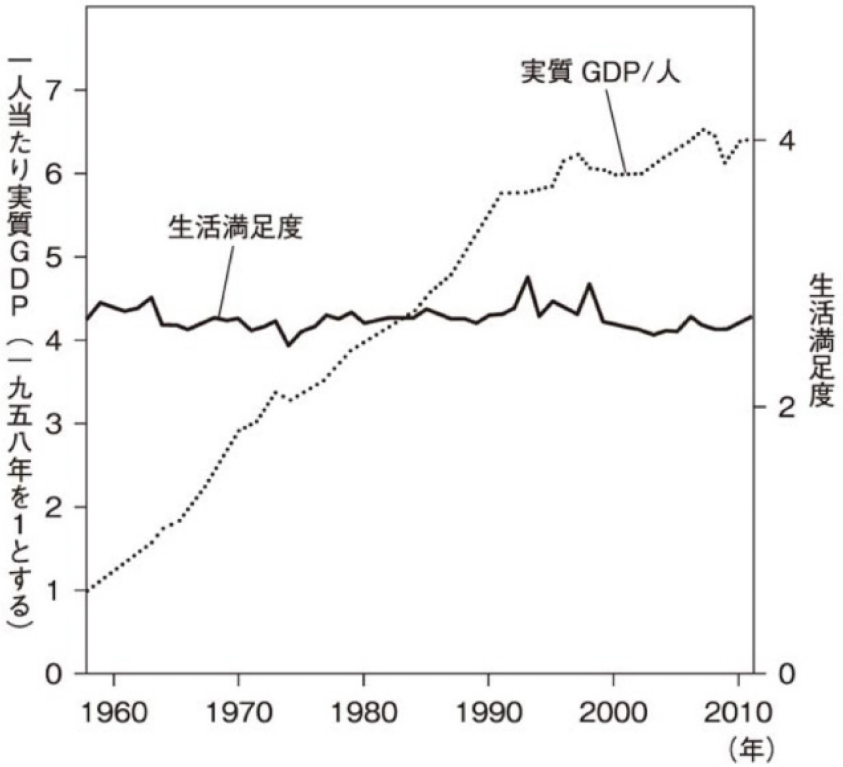


図 1. 生活満足度と一人当たり実質 GDP の推移

[6]資料出所：前野隆司, 幸せのメカニズム 実践・幸福学入門,2014

1.2.2 家族および夫婦（パートナー）、結婚制度や価値観の変化

現在の日本の結婚制度は、当時の明治民法による「家制度」「家父長制度」が取り込まれ、妻の経済的自立と自由が奪われること、夫は外で仕事、妻は家事や育児という「性別役割分業」の考え方から、「あるべき夫婦の規範」が確立した。しかし、現代ではその「あるべき夫婦の規範」は崩れ始めている[14][15]。

男女間、すなわち夫婦間の格差をなくすべく、常時雇用する労働者が 301 人以上の事業主について、職業生活に関する機会の提供に関する実績および、職業生活と家庭生活との両立に資する雇用環境の整備に関する実績の公表を義務付ける「女性活躍推進法の改正（2020 年 6 月）」や男性の育児休業取得促進のための子の出生直後の時期における柔軟な育児休業の枠組みの創設などを明示した「育児・介護休業法の改正（2020 年 4 月）」なども行われた[16][4]。

さらに、石山アンジュ氏が実践する、血縁関係にとらわれず、意識で繋がる、100 人以上からなる新しい家族のかたち「拡張家族」や、婚姻している夫婦が離婚することなく、互いに必要以上は干渉せず、自由を認め合い、最低限のルールを決めて守り、パートナーシップを継続する新しい夫婦の形である「卒婚」も近年話題にあがる[5][6]。

1.2.3 次世代組織モデル「ティール組織」と「DAO」

フレデリック・ラルーは、人類の発達ステージごとのパラダイムと組織モデルの関係性を示し、現代をマズローの五段階欲求説の最後の「自己実現への欲求」ステージとし、新たな進化型組織としてティール組織を提唱した。ティール組織では、社長や管理職からの指示命令系統はなく、「組織の目的（パーパス）」を実現するために、メンバー全員が信頼に基づき、独自のルールや仕組みを工夫しながら、目的実現のために、組織運営を行う。「組織の目的」を共有したあとは、各メンバーそれぞれが力を発揮し、その際、組織の目的と個人の目的が一致するとき、最も強力なティール組織になると定義されている[17]。

また、直近では、Web3 の文脈で、DAO（分散型自立組織）と呼ばれるブロックチェーン上で、コンピュータプログラムとしてエンコードされたルール（スマートコントラクト）によって運用される組織も注目されている。DAO は、中央管理者がおらず、各々のメンバーによって管理され、透明性もあることが特徴である。インターネットにさえ繋がれば、誰でも参加できることから、ビジョンや目的が一致する者が集まるという特徴もある[18]。

ティール組織、DAO 共に、組織のビジョンや目的の共有、さらには自身の目的との一致が重要とされ、自己実現につながることがわかる。

夫婦や家族においては、個人化が進行しており、既存の家という制度で縛ることは現実的ではなく、ビジョンや目的でつながる、また離れるティールや DAO のような柔軟な形が求められる。

1.3研究目的

夫婦間の相互理解を高めることは、夫婦満足度の継続や向上に一定の効果があると考えられる一方、相互理解が実現できていない現状がある。本研究の目的は、夫婦もしくはそれに相当するペア間での相互理解を高めるための適切な手法を提案することである。

本研究は、多様性が認められ、一人ひとりや社会全体の幸福が重要視される現代だからこそ、夫婦においても、お互いの価値観を尊重しあう、つまり相互理解をしあうことがより重要であると考える。

1.4本論文の構成

本論文の構成を図 2 に示す。本論文は1章から7章で構成している。

図 2. 本論文の構成

第1章では、本研究の背景と目的について説明する。第2章では、ビジョンの定義と関連研究について述べる。第3章では、第2章での先行研究調査を踏まえた上で、手法を提案し、第4章で、具体的に設計する。第5章では、第4章で設計した内容が目的を達成しているか実験し、検証を行う。第6章では、第5章の検証を踏まえた考察、第7章で全体を通しての研究のまとめについて述べる。

第2章　ビジョンの定義と関連研究

本章では、本研究で用いる重要な用語であるビジョンを定義する。さらに、関連研究を説明した上で、本研究の位置づけを明らかにする。

2.1ビジョンの定義

夫婦ビジョン共創フレームワークを設計するためには、ビジョンの定義を行う必要がある。ビジョンに関しては、ビジネス領域でさまざまな研究がなされているが、本研究においては、ジム・コリンズらによる「コリンズ・ポラス式ビジョンフレームワーク」を利用する。このフレームワークでは、ビジョンをコアバリューと理念、パーパス（存在目的）、ミッション（目標）の三要素で表すことができるとし、これらをまとめてビジョンと呼ぶことと定義している（図 3）[19]。三要素のそれぞれの中身については、コアバリューと理念は、会社の指標となる原則や信条であるとされ、組織のリーダー個人のコアバリューや理念の延長である。パーパスは、長期に渡り、会社の指針となるような組織の存在意義である。ミッションは、明確なゴールと期限がある目標であり、達成された場合新たなミッションが設定されるという点が、パーパスとの違いだとされている。また、ミッションには4つのタイプがあり、明確で定義のはっきりした目標を設定し実現を目指す目標型、わかりやすい敵をターゲットに設定する共通の敵型、会社の目指すべき姿を設定するロールモデル型、組織自体の変革を掲げる内部変革型に分類される。

図 3. コリンズ・ポラス式ビジョンのフレームワーク

合わせて、コリンズは、企業の構造は目指すべき目的地であるビジョンをトップとし、企業経営における戦略、戦術が生まれる。また複数企業の調査研究の結果、継続される優秀な企業の共通点

として、前述した定義に当てはまる3つの要素を持った素晴らしいビジョンがあることも明らかにしており、企業経営におけるビジョンの重要性を語っている(図 4)。

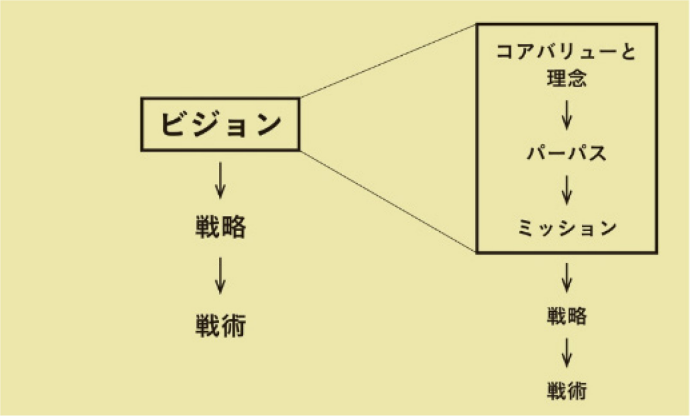


図 4. 企業ビジネスの構造とビジョンの図

本研究では、企業におけるビジョンの三要素を夫婦に応用し、これを夫婦ビジョンと定義し提案する。

2.2関連研究

相互理解に関する研究については、相互理解を促進するためには、3つのプロセスが重要だということが明らかになっている。1つ目は、相手の視点に立つことのできる視点の移行。2つ目は、会話の構造化。3つ目が信頼の確立である[20](図 5)。夫婦の相互理解については、219 組の新婚カップルのデータを用いて、パートナーとの類似性と対立性、理解の相対的重要性(夫婦の幸福度)を検討した結果、パートナーが「自分と似ている」と感じることの重要性が明らかになった。妻にとって、夫婦円満の最も強い因子は、妻の夫に対する理解であり、夫については、夫婦ともに自分の行動に関する自己報告が最も強い因子であった[21]。また、別の研究では、新婚夫婦が夫婦間の葛藤について話し合う問題解決課題と、夫婦以外の個人的な困難について話し合う社会的支援課題という 2 つの相互作用課題を扱った結果、互いにサポートしない場合には 2 年後に夫婦機能不全に陥っていることを明らかにした。このことからも、夫婦間で行動原理をお互いに理解し、サポートし合える状態を作ることが重要である[22]。さらに、家庭をシステムとして捉え、システムをマネジメントする“家庭マネジメント“を家事専従者を前提としないモデルの解とし取り上げ、そのマネジメント構造の提案とその実践を行う研究もある[23](図 6)。

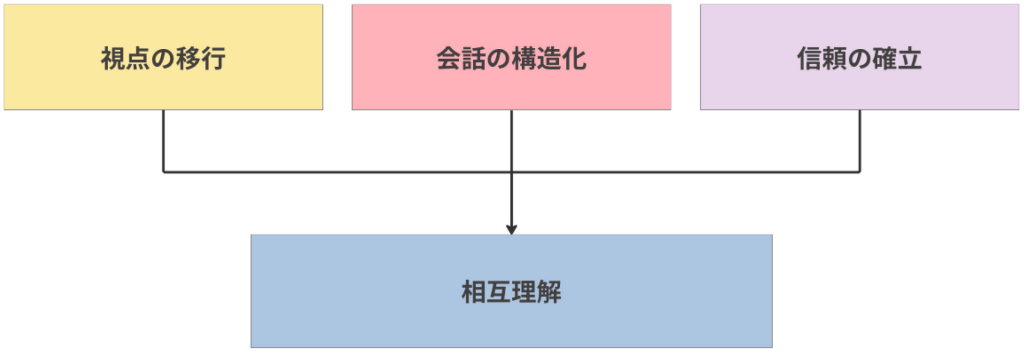


図 5. 相互理解の3つのプロセス

[20] 資料出所:Tan Margaret, Establishing Mutual Understanding in Systems Design: An Empirical Study,2015

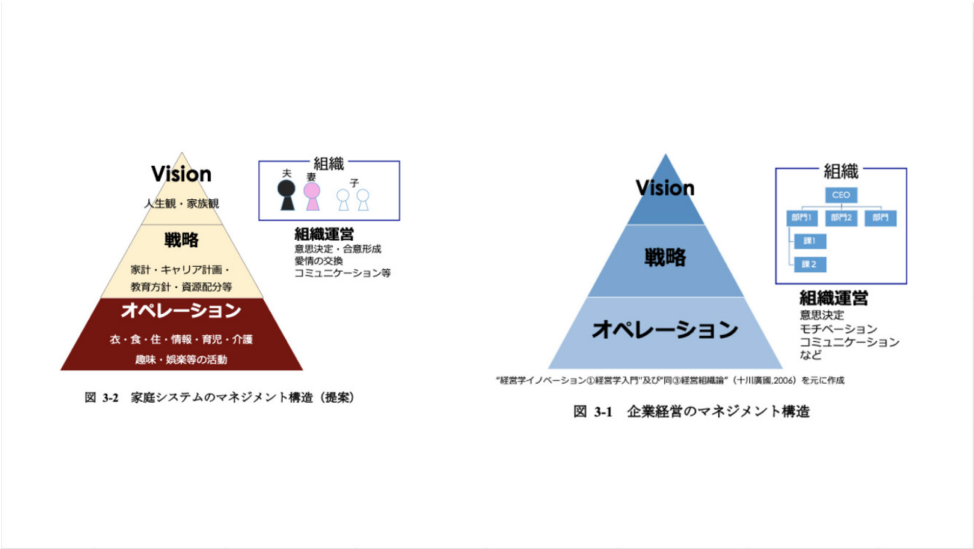


図 6.家庭のマネジメント構造

[23]資料出所:加藤めぐみ,家庭マネジメントの提案-共働きの意識化と行動変容を例として-,2019

表 1.関連研究

	タイトル	概要	著者,年
1	Establishing Mutual Understanding in Systems Design: An Empirical Study	システム要件を決定する際のコミュニケーション行動、相互理解のプロセスの影響の仮説	Tan Margaret (2015)

		を検証	
2	経営理念の浸透が顧客と従業員の満足へ及ぼす効果	理念主導型の経営を通じて経営理念の浸透が顧客満足度(CS)と従業員満足度(ES)を両立させているという仮説を検証	松葉博雄(2008)
3	創業経営者のビジョナリー。リーダーシップと組織文化	創業経営者と組織文化、ビジョンの概念を事例を通して論じる	坂下昭宣(1995)
4	ビジョナリーカンパニーZERO	ビジョンの必要性と定義、フレームワークを複数の企業の例を参考に紹介	ジム・コリンズ(2021)
5	“家庭マネジメント”の提案 -共働きの意識化と行動変容を例として-	家庭をシステムとして捉え、システムをマネジメントする“家庭マネジメント“を家事専従者を前提としないモデルの 1 つの解とし取り上げ、そのマネジメント構造の提案とその実践を行う	加藤めぐみ(2019)
6	Perceptions of Conflict in the First Year of Marriage: How Important are Similarity and Understanding?	219 組の新婚カップルのデータを用いて、パートナーとの類似性と対立性、理解の相対的重要性(夫婦の幸福度)を検証した	Linda K. Acitelli, Elizabeth Douvan, and Joseph Veroff (2016)
7	Social support, conflict, and the development of marital dysfunction.	新婚夫婦が夫婦間の葛藤について話し合う問題解決課題と、夫婦以外の個人的な困難について話し合う社会的支援課題という 2 つの相互作用課題を扱った結果、互いにサポートしない場合には 2 年後に夫婦機能不全に陥っていることを明らかにした	Pasch, L. A., & Bradbury, T. N. (1998)

関連研究(表 1)から、企業経営でのビジョンの重要性の認識や、メンバーに与える影響、また企業経営におけるビジョンのフレームワークが確立されていること、さらに家族をシステムと捉えマネジメントを行うことの有用性が明らかになっている。しかし、家族や夫婦システムにおけるビジョンの定義や設定の手法は明らかにされていない。

そこで本研究では、先行研究で明らかにされていない夫婦のビジョンを共創するフレームワークを明らかにし、夫婦間の相互理解を高めることを目指す。

第3章　夫婦ビジョン共創フレームワーク

本章では、提案する夫婦ビジョン共創フレームワークの特徴や夫婦ビジョンの定義を述べ、さらに夫婦ビジョン共創フレームワークを利用した夫婦ビジョン作成の流れや理想のシナリオイメージを紹介する。

3.1夫婦ビジョン共創フレームワークの提案

背景や関連研究から、企業経営におけるビジョンの重要性や影響の認識、また定義やフレームワークが確立されていること、さらに家族をシステムと捉えマネジメントを行うことの有用性が明らかになっている。

本研究では、先行研究で明らかにされていない家族におけるビジョンの定義や設定の手法を家族の中でも夫婦にスコープを絞り、夫婦のビジョンの設定を行うことにより夫婦間の相互理解が高まるという仮説のもと、夫婦ビジョン共創フレームワークを提案する。改めて、夫婦ビジョン共創フレームワークとは、それぞれの夫婦のビジョンを夫婦間で共創するためのフレームワークである(図 7)。

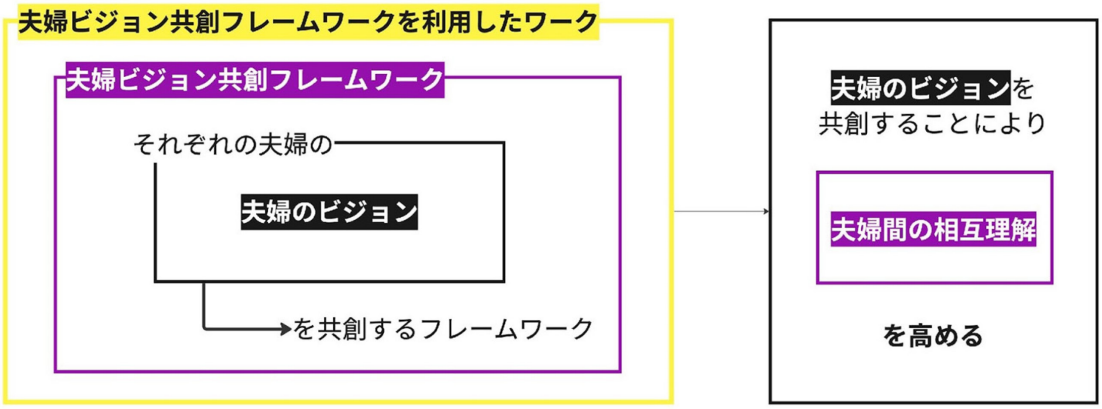


図 7. 夫婦のビジョン・夫婦ビジョン共創フレームワークの関係図

さらに、夫婦ビジョン共創フレームワークを利用したワークで、夫婦のビジョンを共創できたのか、また夫婦のビジョンを共創することにより、相互理解につながるのかを検証し、提案する夫婦ビジョン共創フレームワークの有効性を評価する(図 8)。

合わせて、事前ヒアリングから、ビジョンについて言葉として認識していない、もしくは聞いたことはあるが説明までできないという人や、ビジョンの意味はわかるが家族に設定することをポジティブに感じない人もいたため、フレームワークの検証だけではなく、夫婦の相互理解を高める行為として、夫婦のビジョンの共創が正しかったかの妥当性確認も行う。

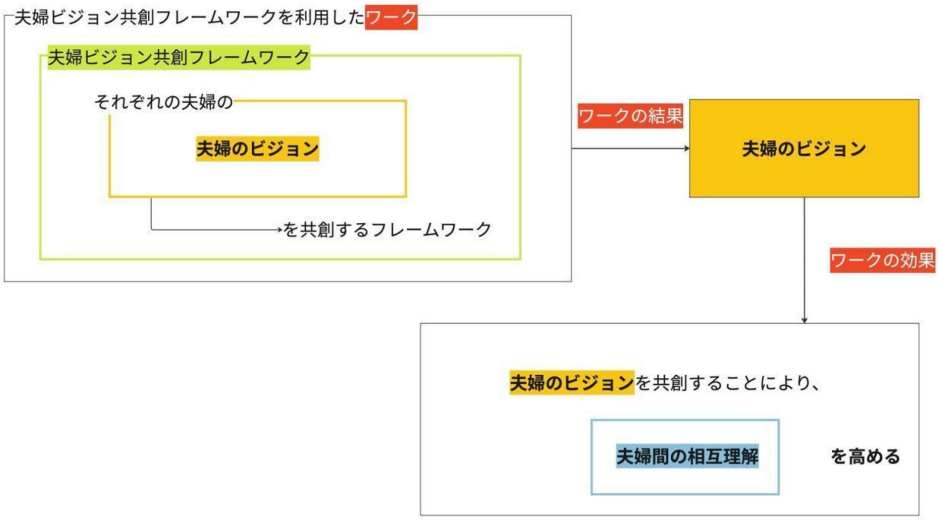


図 8. 夫婦ビジョン共創フレームワークを利用した夫婦ビジョン作成の提案

今回の提案の対象者は、夫婦もしくは、それに相当するペアを対象とし、年齢や子供の有無などは問わない。また、最終的なアウトプットは、手軽さと、記録できること、更新性を重視していること、およびコロナ禍での実証であることから、オンラインホワイトボードツールにて提案する。

3.2夫婦ビジョン共創フレームワークの特徴

提案する夫婦ビジョン共創フレームワークは、夫婦のビジョンの要素を明らかにする必要がある。本研究では、先行研究および夫婦もしくは、それに相当するペアからのヒアリングをベースにニーズ調査、課題分析を行い、設計を行うと同時に、コリンズらによる企業経営のビジョンのフレームワークである「コリンズ・ポラス式ビジョンのフレームワーク」(図 9)を参考に夫婦ビジョン共創フレームワークの設計を行っているところが特徴である。

図 9. 企業のビジョンのフレームワーク

提案する夫婦のビジョンのフレームワークは、企業のビジョンのフレームワークのコアバリューと理念の部分を夫婦の価値観とし、夫婦個人の価値観の延長からなる二人の価値観とした。これは、普段の生活の行動の指標になるとも定義した。二つ目のパーパス（存在意義）はパーパス（夫婦の目的）とした。企業のビジョンと同じく、左の要素から生まれるもので、夫婦の価値観から生まれる夫婦の存在する根本的理由としている。長期に渡り、何かを決めたり迷ったりしたときの指針となる。最後、三つ目はミッション（夫婦の目標）である。パーパスと違い明確な期限とゴールがある目標で、タイプは明確にわかりやすい目標型と、幸せの基準を設定するときに逆説的に使われる最悪のゴールとした。ここで定義した夫婦のビジョンのフレームワークも参考に、このあと夫婦ビジョン共創フレームワークを提案する。

図 10. 夫婦のビジョンのフレームワーク

3.3夫婦ビジョンのシナリオイメージ

具体的なシナリオのイメージであるが、夫婦には子育てや病気、親の介護など、さまざまなライフイベントがあり、その度に選択を迫られる。例えば、子どもの教育ひとつを例にしても、夫婦ともに子どもの幸せや家族の幸せを前提に置いているにも関わらず、気持ちや方針は完全に一致しない。しかし、事前に夫婦の指針となる夫婦のビジョンがあれば、本質的な議論や判断ができる。このシナリオでの大事なポイントは、幸せの価値基準は人によって違うという理解や、相手は自分のことを理解している、理解してくれようとしているという点である（図 11）。

図 11. 理想のシナリオイメージ

第4章　夫婦ビジョン共創フレームワークの設計

本章では、提案した夫婦ビジョン共創フレームワークを設計する。設計は、ステークホルダーへのヒアリングから課題を分析、さらに先行研究から抽出した相互理解などの要素と合わせて要求を定義し、機能、プロセス、ツールであるワークシートを設計した。

4.1設計のコンセプト

夫婦もしくは、それに相当するペアが、相互理解を高めるために、ビジョンの共創を行う夫婦ビジョン共創フレームワークのコンセプトについて説明する。

本手法の5W、1H は、次の図 12 のとおりである。

Who	夫婦、もしくはそれに相当するペア
When	夫婦でなにかを決めたいとき
Where	miro（オンラインホワイトボード）上で
Why	夫婦を継続的に幸せにするために
How	家族のビジョンのフレームワークを使うことで
What	夫婦のビジョン／相互理解を提供する

図 12. 本手法の 5W1H

前章の 3.3 夫婦のビジョンのシナリオイメージで論じた通り、夫婦には子育てや病気、親の介護など、さまざまなライフイベントがあり、その度に選択を迫られる。本手法は、夫婦に訪れるライフイベントで何かを決めないといけないとき、もしくは将来的に何かを決めたり迷ったりしたときの指針、さらには普段の生活の行動の指標になるような夫婦のビジョンを提供するものである。

そのため、次の3点をポイントとして設計を行う。

【3つのポイント】

1. 誰にでもできること

利用に特別なスキルが必要であってはならない。例えば、簡単な質問と回答、その整理、最低限のパートナーとのディスカッションを通して完成する。

2. 簡単に見返すことができる

夫婦の指針や行動の指標となるため、簡単に見返すことができるようにする。簡単に見返せることにより、効果が高まるとともに効果の実感も持つことができる。また、なぜそのような結果に至ったのか、プロセスをわかるようにする。

3. 何度も繰り返しできること

夫婦のビジョンは、一度作成したら完成ではなく、時間の経過や周囲の環境で変化するため、何度も繰り返しできるようにする。半年や 1 年に 1 回など期間を決める。もしくは、ライフイベントに合わせて、行うことを想定する。

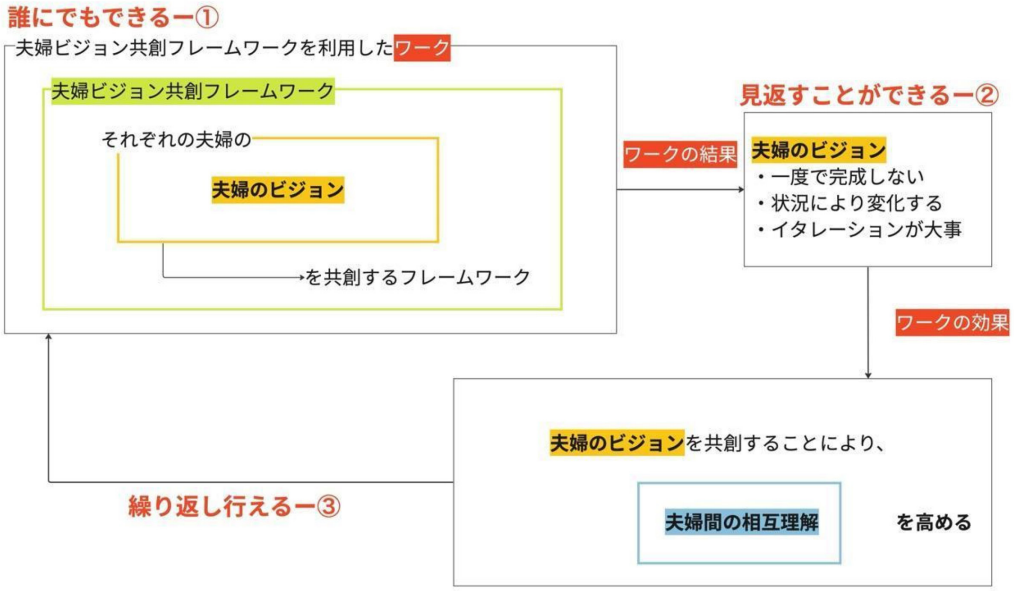


図 13. 夫婦ビジョン共創フレームワークの利用イメージ

4.2予備調査と課題分析

4.2.1　　ステークホルダーの抽出

まず、本手法の設計にあたり、ステークホルダーを図 14 に抽出した。本手法の直接の関係者は、「夫もしくはそれに準ずるもの」と「妻もしくはそれに準ずるもの」である。間接的な関係者は、「両親や子供など親類」、「勤め先の同僚」、「近所に住む人」のように夫婦もしくは、夫や妻個人に関わりのある方である。

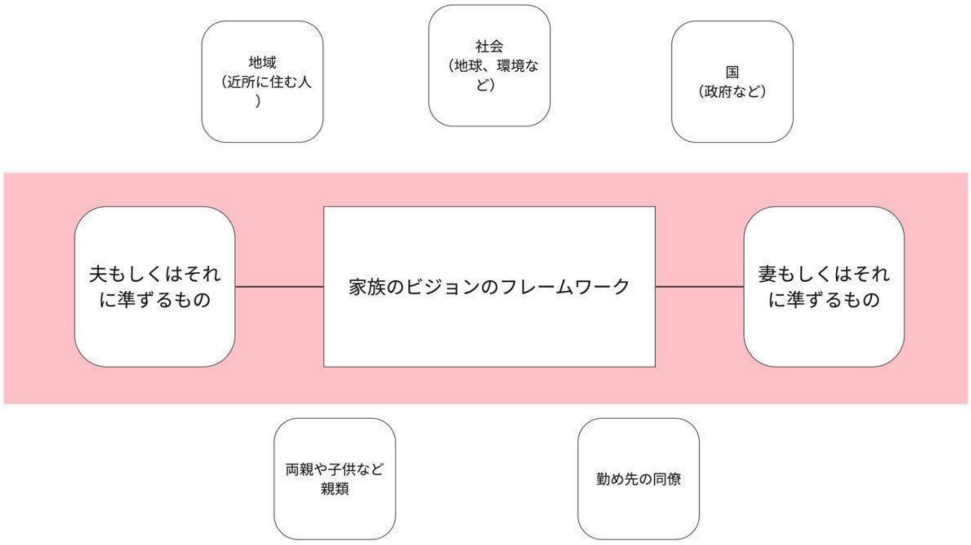


図 14. ステークホルダー抽出

4.2.2　　ステークホルダーニーズの抽出

本手法を設計するにあたり、夫婦の相互理解や共通目的に関する意識分析を行うために、結婚している、もしくはそれに相当する 4 名へのインタビューを行った。インタビューは、ペア両者にではなく、どちらか一方に行った。

表 2. ステークホルダーインタビュー1

日時	2023 年 1 月 7 日(土)19 時～19 時 30 分
場所	オンライン
対象者	32 歳女性、子供 1 人
目的	婚姻中のパートナーとの相互理解の現状と課題の全体像を理解するため
インタビュー項目	・夫婦コミュニケーションの現状と課題 ・相手の価値観の理解、夫婦での価値観の共有はできているか

	・夫婦生活を続ける上で大事にしていること など

主なインタビュー内容：概要（表 2）

Q：夫婦コミュニケーションの現状と課題は？

A：

・相手が忙しくて話しかけづらい

・本当に忙しいかはわからない

・子供に関するコミュニケーションが多い

・メールは毎日する

・メールの方が具体的な要件を話しやすい

Q：相手の価値観の理解、夫婦での価値観の共有はできているか？

A：

・相手の価値観については理解しているつもりだが、自分の価値観の共有は特にしていない

・自分の価値観の共有を行わないのは、無理に合わせてもらう必要がないと思うから

・あまり価値観の共有には、こだわっていない

・自分の価値観の共有はしていないが、相手は一定理解してくれていると思う

Q：夫婦生活を続ける上で大事にしていること？

A：

・（すぐに回答できず）

Q：価値観の共有ができていないからコミュニケーションがうまくいかないと思ったことは？

A：

・あります

表 3. ステークホルダーインタビュー2

日時	2022 年 1 月 7 日（土）20 時～20 時 30 分
場所	オンライン
対象者	婚姻中の 40 代男性、子供あり
目的	婚姻中のパートナーとの相互理解の現状と課題の全体像を理解するため
インタビュー項目	夫婦コミュニケーションの現状と課題 相手の価値観の理解、夫婦での価値観の共有はできているか 夫婦生活を続ける上で大事にしていること

主なインタビュー内容：概要（表 3）

Q：夫婦コミュニケーションの現状と課題は？

A：

・20 年もいるとだいたいわかりあっている感じなので、ことさら深い議論などは最近していない

・過去にケンカ含めて議論をいろいろやってきた

・相手の様子（機嫌など）の変化の原因を突き止めて対応しようとする

・いままでにないパターンがもうすでにない

・基本は隠し事がないという前提だから成立する→オープンな状態を認め合えている

・問題解決の姿勢を作れるかどうかが大事

・最初は、半日議論することなどもあった

・受け入れるというか、許せるかどうか→許せるプロセスが大事

・自分の課題は、相手を観察し続けないといけない。相手の課題は、冷静で感情的にならないこと→（筆者メモ：俯瞰的に見ることが必要）

Q：相手の価値観の理解、夫婦での価値観の共有はできているか？

A：

・夫婦コミュニケーションの現状と課題は？を参照

Q：夫婦生活を続ける上で大事にしていること？

A：

・結婚したということは、相手の生活や人生の責任を取ることなので、簡単には諦められないから。ちょっと付き合うとか、好き嫌いではない

・根底には、相手への愛情（応援する気持ち）がある

・子供や親などステークホルダーには、最低限のエクスキューズのみでいい。相手に押し付けるものではない

・夫婦としては健康で長生きした（健康寿命）

・10 年後、どうなっていたかなどは考えなくてもいい

・仕事はパートナーが楽しんでいると良い（夫婦で自営を行なっている）

・自分の興味としては蓄財だが、ゲーム感覚

・共通のビジョンはない

・目標を立て叶えても意味がない。幸せになる保証はない。過度な期待はしない

表 4. ステークホルダーインタビュー3

日時	2022 年 1 月 8 日（日）11 時～11 時 15 分
場所	オンライン
対象者	婚姻中の 30 代女性、子供 1 人
目的	婚姻中のパートナーとの相互理解の現状と課題の全体像を理解するため
インタビュー項目	夫婦コミュニケーションの現状と課題 相手の価値観の理解、夫婦での価値観の共有はできているか 夫婦生活を続ける上で大事にしていること

主なインタビュー内容：概要（表 4）

Q：夫婦コミュニケーションの現状と課題は？

A：

・コミュニケーションは取れている

・職場も同じなので

・ライフステージ応じて、都度話しあいもしている

・相手が合わせてくれているかもしれないが、真偽は不明

Q:相手の価値観の理解、夫婦での価値観の共有はできているか？

A:

・理解できているつもりではいるが、あやふやな面もある

・過去のケンカなどから、相手がなにが嫌かは一定理解がある

・自分の価値観は理解してくれていると思うが、真偽不明

・夫婦での価値観の共有はないが、子供が一番である。

Q:夫婦生活を続ける上で大事にしていること？

A:

・ストレスを溜めない。年に一回は、一人で旅行に行く

・友達関係には干渉しない

・自分の時間を大事にする

表 5. ステークホルダーインタビュー4

日時	2022 年 1 月 8 日(日)11 時 30 分～12 時 15 分
場所	オンライン
対象者	婚姻中の 40 代女性、子供なし
目的	婚姻中のパートナーとの相互理解の現状と課題の全体像を理解するため
インタビュー項目	夫婦コミュニケーションの現状と課題 相手の価値観の理解、夫婦での価値観の共有はできているか 夫婦生活を続ける上で大事にしていること

主なインタビュー内容:概要(表 5)

Q:夫婦コミュニケーションの現状と課題は？

A:

・コミュニケーションは取れている

・仕事も一緒だし、共通の話題やアドバイスもできるから

・趣味も近い。スタバが好きとか、温泉が好き、登山が好き、温泉旅行が好き

・休みの日は、共通の趣味に充てられる

・走ったり

・自分の知らないところで楽しいことが悔しい

・ケンカはしない。仕事を理解しているから？

・一回離婚しているから結婚に慎重になった

・考え方とかなど事前にかなり調整した
・仕事の相談から、考え方や価値観の理解ができた
・唯一違ったのは犬嫌い
・課題はないように思う
・両親を大事にする

Q：相手の価値観の理解、夫婦での価値観の共有はできているか？
A：
・向こうが大事にしていることは否定しない
・化粧品だけは大事にしている
・親を大事にする
・まるまる休みの日は二人で遊ぶ

Q：夫婦生活を続ける上で大事にしていること？
A：
・特にない。休みの日に一緒に過ごす
・少しでも考え方が違ったら結婚していない
・安定した老後を二人過ごすという目標
・将来はどちらかの故郷で田舎暮らしする
・安定した未来を見据えられる（考えられる）パートナー

4.2.3 ステークホルダーニーズの分析

離婚理由の分析結果、ステークホルダーインタビューから、ステークホルダー（幸せを継続したい夫婦）のニーズは、次の 12 項目（表 6）に整理した。

表 6. ステークホルダーニーズ

番号	ニーズ
N1	相手のこと(価値観等)はわかっているつもりだが、本当にあっているかわからない
N2	自分の価値観を押し付けなくないが、最低限理解してほしい
N3	違いを明らかにする
N4	価値観の共有ができていないからコミュニケーションがうまくいかない
N5	過去、ケンカして相手の価値観を理解してきた。が、またケンカするのは辛い
N6	相手にオープンな状態であれば、認め合える
N7	問題解決の姿勢を作りたい
N8	感情的にならず、俯瞰的に見て、判断したい
N9	幸せに一緒に居続けるという共通認識が必要
N10	幸せにつながらない目標は、意味はない。幸せにつながる目標がほしい
N11	家族や子供、老後の過ごし方など、暗黙知の共通の価値観はある
N12	過度な干渉はしたくないし、してほしくない

4.2.4 要求定義

前項のステークホルダーニーズ（表 6）と照らし合わせ、本手法で扱うステークホルダー要求を定義した（表 7）。夫婦関係を幸せに継続したい、将来について安心したいに対して、夫婦としての共通の価値観や幸福な状態の共有、目標を創造する、相手に自分を理解して欲しいに対しては、自分自身の価値観を明らかにし、相手に共有する、健全なコミュニケーションを取りたいに関しては、夫婦としての共通の存在目的を共創するを抽出した。

表 7. ステークホルダー要求

番号	要求	要求元
R1	自分自身の価値観を明らかにする	N2,N3,N4,N12
R2	相手に自分の価値観を共有する	N2,N3,N4,N5
R3	夫婦としての価値観を共創する	N3,N4,N6,N11
R4	夫婦としての共通の存在目的を共創する	N5,N6,N7,N8,N11
R5	時間軸のある目標イメージを共創する	N9,N10
R6	夫婦にとって幸福な状態を共創する	N5,N7,N8,,N9,N11
R7	相手の価値観を理解する	N1,N4

4.3夫婦ビジョン共創フレームワークの設計

4.3.1 機能設計

前節で明らかにした要求を機能に変換した(表 8)。

表 8. 要求と機能

番号	要求内容	システム機能
R1	自分自身の価値観を明らかにすること	F1.自分自身の価値観を明らかにする機能
R2	相手に自分の価値観を共有すること	F2.相手に自分の価値観を共有する機能
R3	夫婦としての価値観を共創すること	F3.夫婦として価値観を共創する機能
R4	夫婦としての共通の存在目的を共創すること	F4.夫婦の目的を共創する機能
R5	時間軸のある目標イメージを共創すること	F5.夫婦の目標を共創する機能
R6	夫婦にとって幸福な状態を共有すること	F6.夫婦にとって幸福な状態を共創する機能
R7	相手の価値観を理解すること	F7.相手の価値観を理解する機能

また、設計を行う夫婦ビジョン共創フレームワークを構成する要素をよりわかりやすく整理するために、機能を、共有する内容と共創する内容の二つのカテゴリに分類した(図 15)。

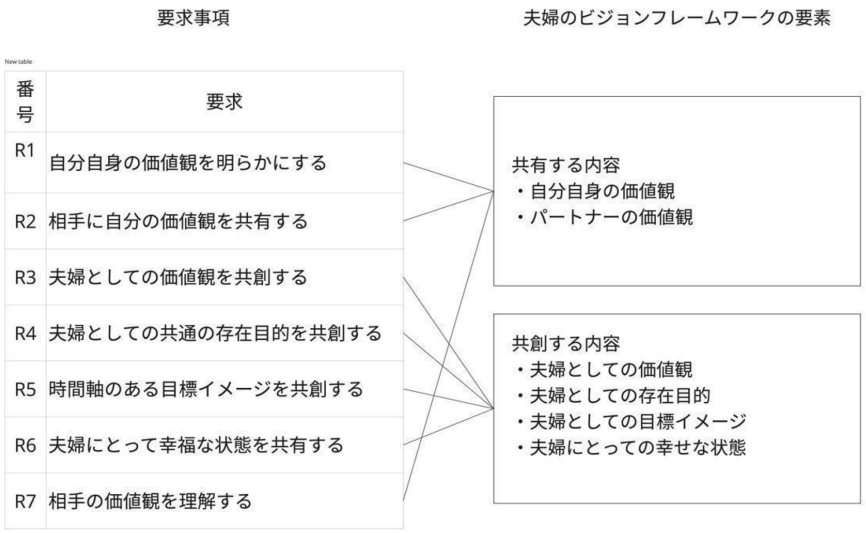


図 15. 夫婦ビジョンフレームワークを構成する要素

4.3.2 機能の流れ

定義した機能を機能フロー図（図 16）で整理した。機能フロー図は機能の流れを明確化し、階層化による細分化を行うシステムエンジニアリングの一般的な手法である。機能の流れとして、まず夫婦としての共通の価値観を共創する。そのために、自分自身の価値観を明らかにし、相手に共有し、さらに相手の価値観を共有してもらい理解する。夫婦の目的を共創する。夫婦の存在目的を明らかにするために、夫婦にとっての幸福の基準も明らかにする。その後、自分の将来の目標を明らかにし、パートナーと語ることで、夫婦の目標を明らかにする。

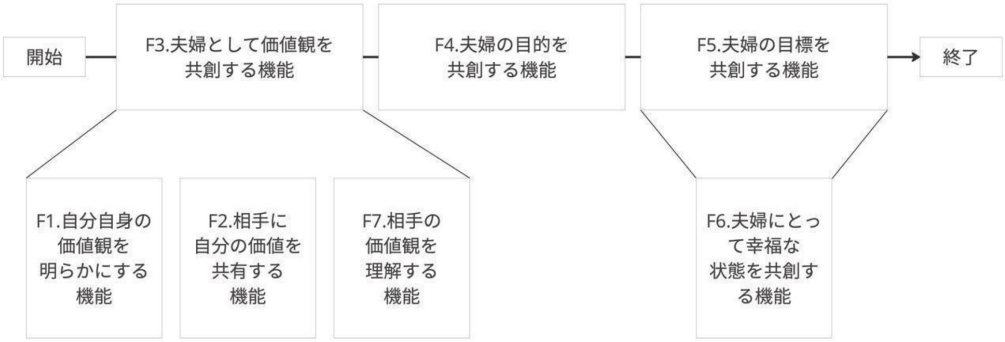


図 16. 機能フロー図

4.3.3　　機能と物理(フレームワーク)への割り当て

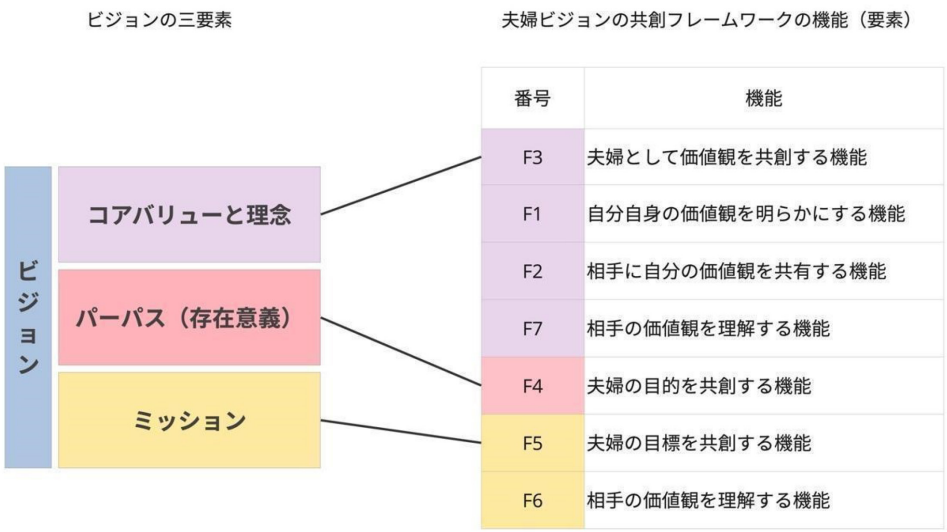


図 17. ビジョンの三要素と機能の対応図

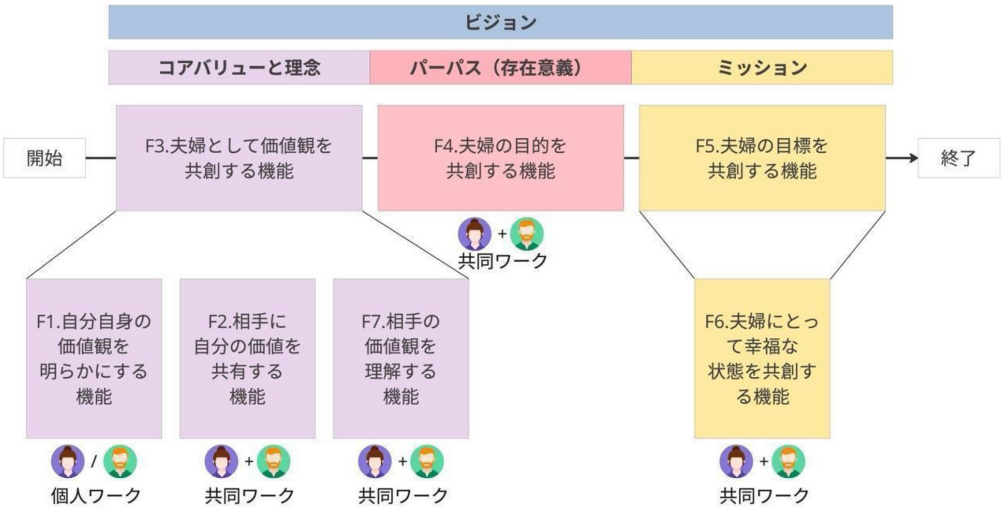


図 18. 機能と物理の割り当て

図 17,18 のようにビジョンの3要素と機能のマッピングを行った。本手法の重要な要素は、自分自身の価値観を明らかにし、それをパートナーに発表しながら共有し合うこと、さらにそこからの気づきと発見、視点を利用し、夫婦としての存在目的や 5 年後や 10 年後のイメージ、つまり目標を共創する行為である。

4.4夫婦ビジョンフレームワークの作成

4.4.1　　夫婦ビジョン共創フレームワークの構成

4.3 までに明らかにした内容をベースに、夫婦ビジョン共創フレームワークは、4 つのシートに割り当てた。4 つのシートは、夫婦の価値観を明らかにするワークシート 1 と 2、夫婦の目的（パーパス）を明らかにするワークシート 3、夫婦の目標（ミッション）を明らかにするワークシート 4 である。また、実証にあたり導入およびラップアップの機能も追加する（図 19）。

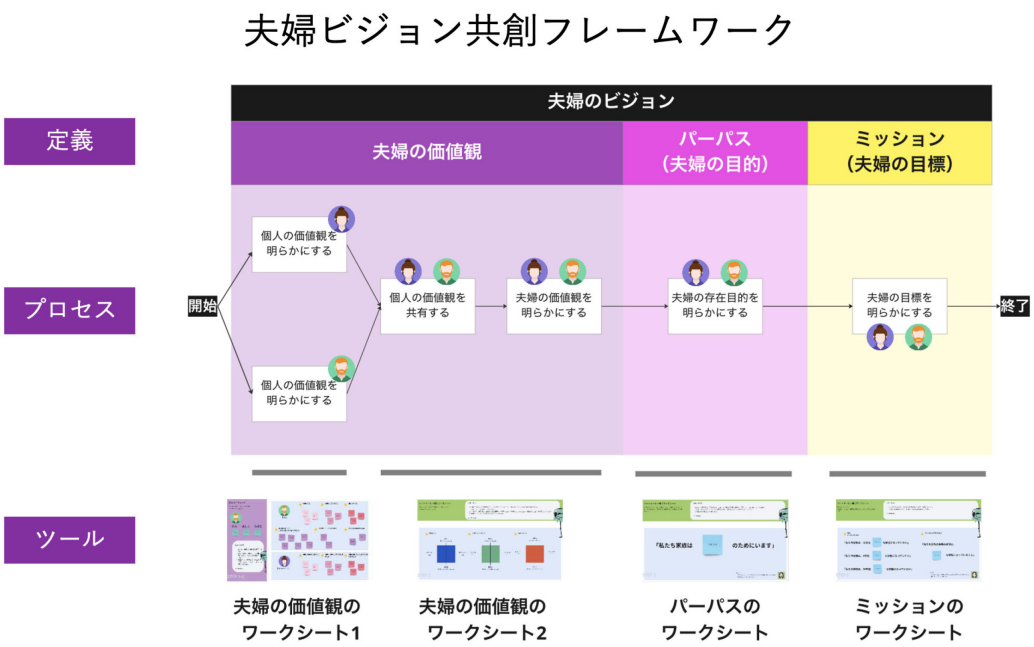


図 19. 夫婦ビジョン共創フレームワークの概要

4.4.2　　「夫婦の価値観シート」の作成

①【個人ワーク：ワークシート 1】自分自身の価値観を明らかにする：得意なこと、大事にしていること、譲れないこと、好きなもの・こと、10 年年後こうなっていたいを書き出す。合わせて、相手が得意だと思うこと、大事にしていると思うこと、譲れないと思っていることも同時に書き出す。（図 20,21）

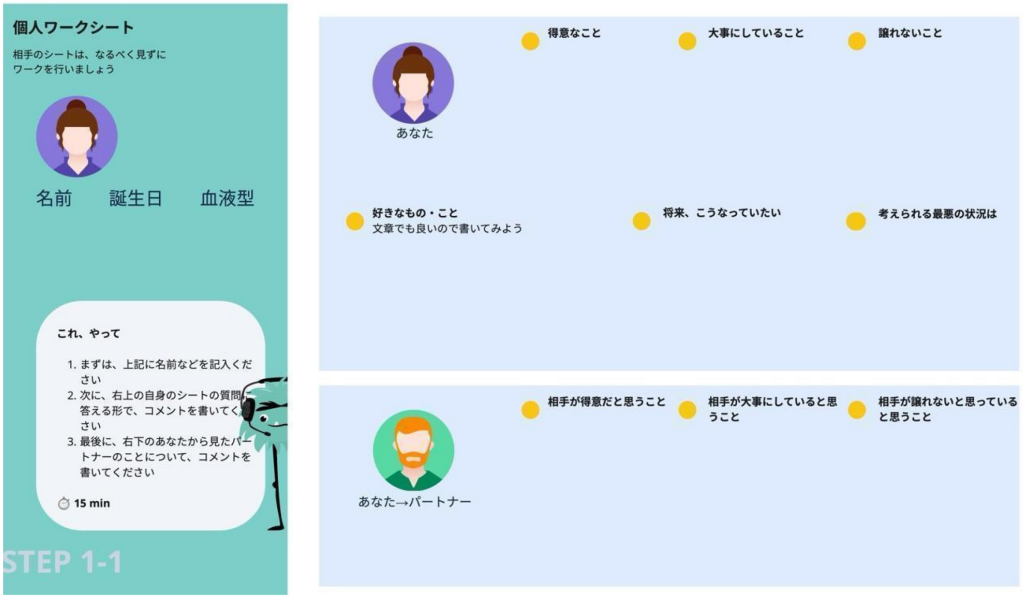


図 20. ワークシート 1-1

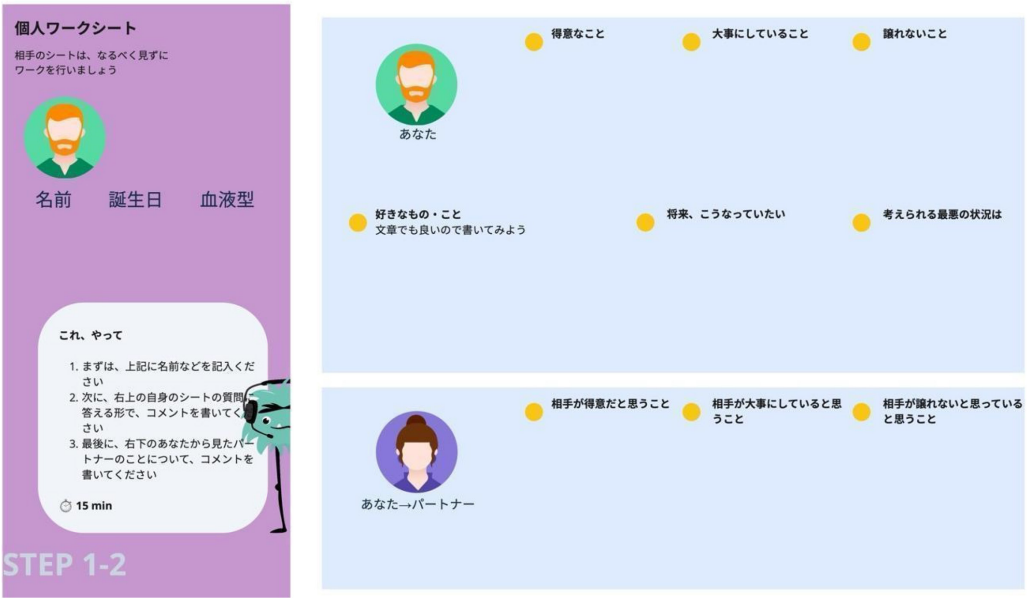


図 21. ワークシート 1-2

②【共同:ワークシート 2】自分自身の価値観の共有とパートナーの価値観の共有、夫婦での価値観の共創:①で書き出した自身の価値観を、それぞれ発表しながら、2 軸図にマッピングしていく。2 軸は、自分とパートナーで似ていることと似ていないこと、さらに相手も気づいていたことと相手は気づいていなかったことに分ける。このマッピングされた価値観を夫婦 2 人の価値観と定義する。(図 22)

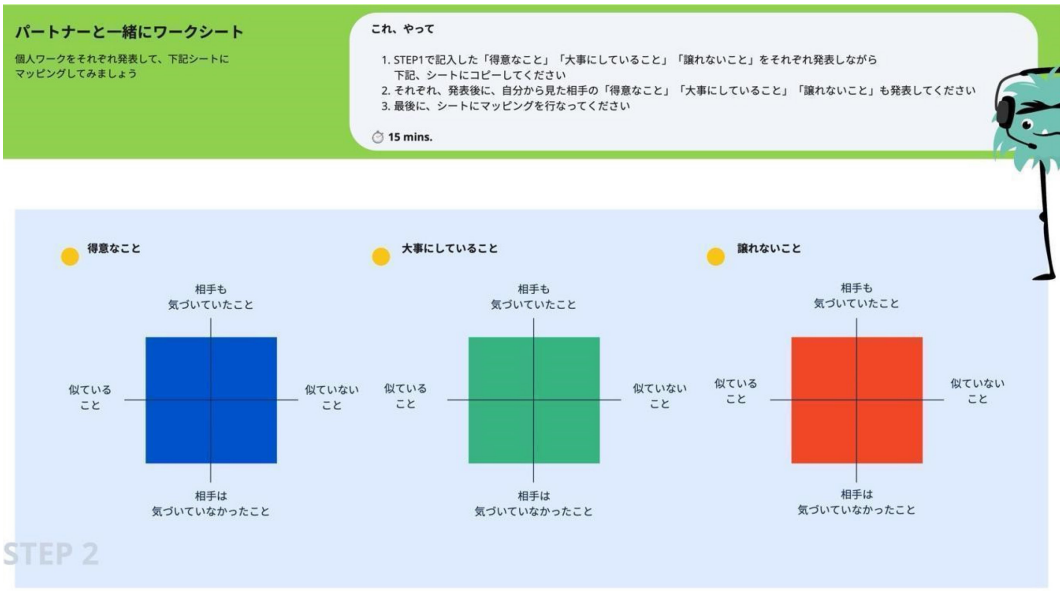


図 22. ワークシート 2

4.4.3 「夫婦の目的(パーパス)シート」の作成

③【共同:ワークシート 3】夫婦の目的を明らかにする:②のワークで行った 2 人の価値観や、①のワークの好きなもの・ことから、夫婦 2 人でいる目的を明らかにする。(図 23)

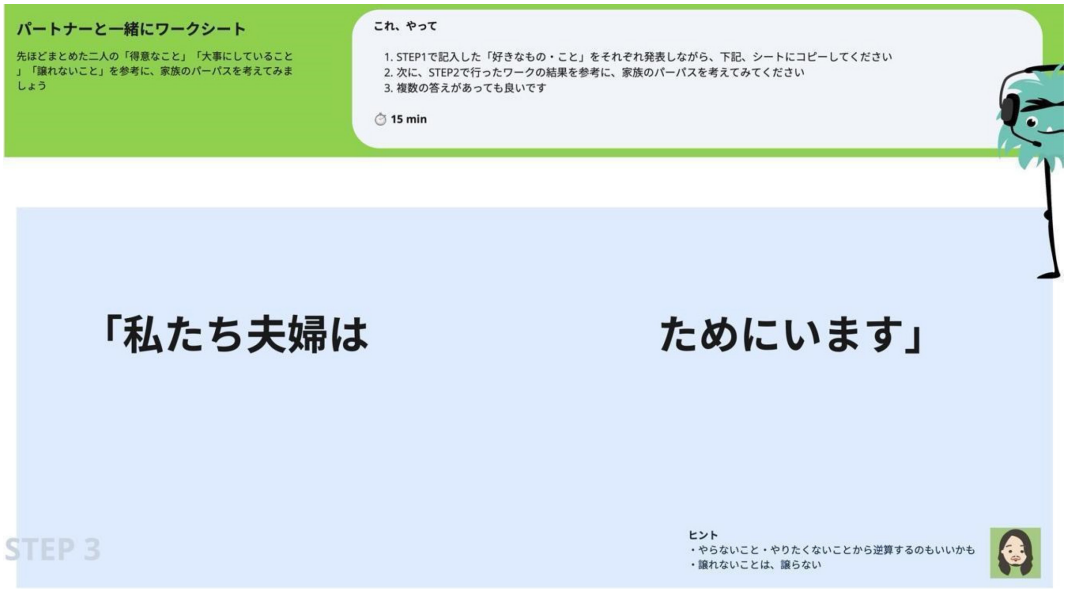


図 23. ワークシート 3

4.4.4 「夫婦の目標(ミッション)シート」の作成

④【共同:ミッションのワーク】個人の目標と幸福の条件を明らかにする:①の個人ワークで出たコ

メントや今までのワークを参考にしながら、夫婦が半年後、5 年後、10 年後どうなっていたいか。そして、どのような状態が最悪の状態であるかを明らかにする。このシートで明らかになったことを、夫婦のミッションと定義する。(図 24)

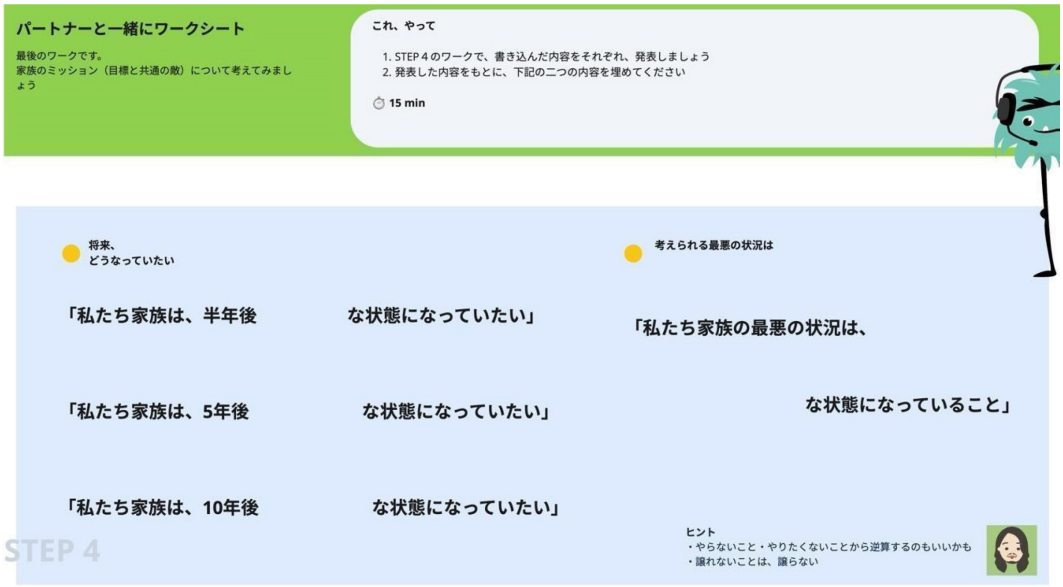


図 24. ワークシート 4

4.4.5 「導入シート」と「ラップアップシート」の作成

その他、表紙を含む導入シートとラップアップのシートは、図 25-28 で示す。

【導入シート】

図 25. ワークシート 0-1

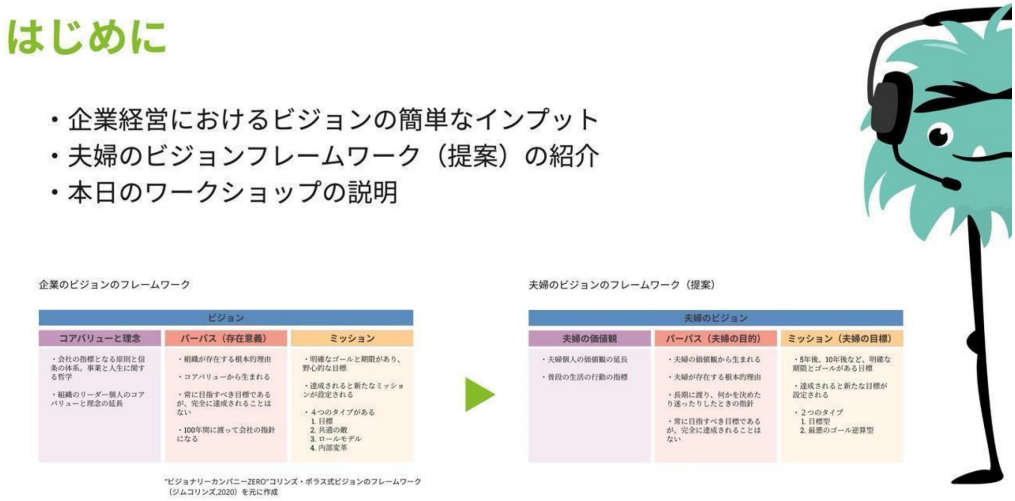


図 26. ワークシート 0-2

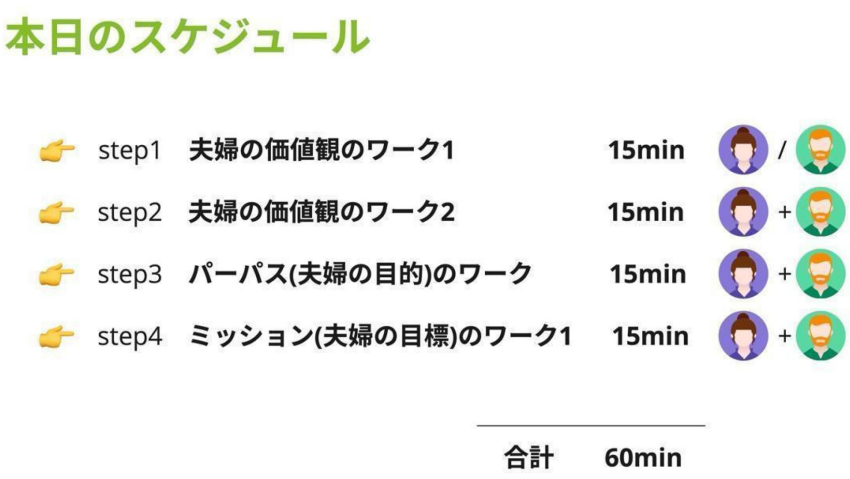


図 27. ワークシート 0-3

【ラップアップシート】

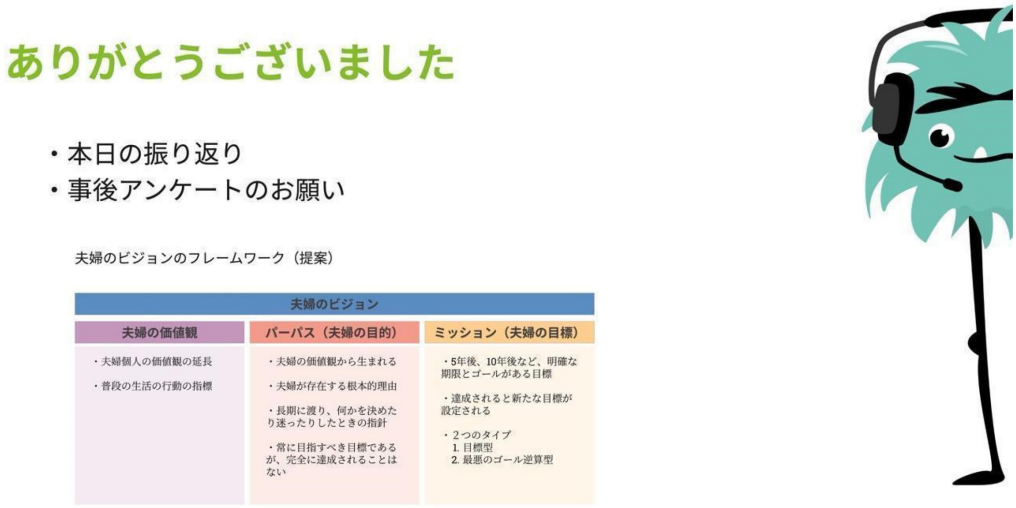


図 28. ワークシート 5

4.5夫婦ビジョン共創フレームワークの運用

前述した夫婦の価値観を明らかにするワークシート 1・2と夫婦の目的を明らかにするワークシート 3、夫婦の目標を明らかにするワークシート 4 で構成された夫婦ビジョン共創シートを使って、個人ワークと夫婦で行う共同ワークを通して、夫婦のビジョン、すなわち夫婦の価値観、夫婦の目的、夫婦の目標を共創する。共有される内容は、「自分自身の価値観」「パートナーの価値観」であり、自分自身でのワークとパートナーへの共有、ディスカッションを経て定義するものである。また、共創する内容は、「夫婦としての価値観」であり、具体的には、「夫婦の目的」、「夫婦の目標」をこちらも、自分自身でのワークとパートナーへの共有、ディスカッションを経て共創する。

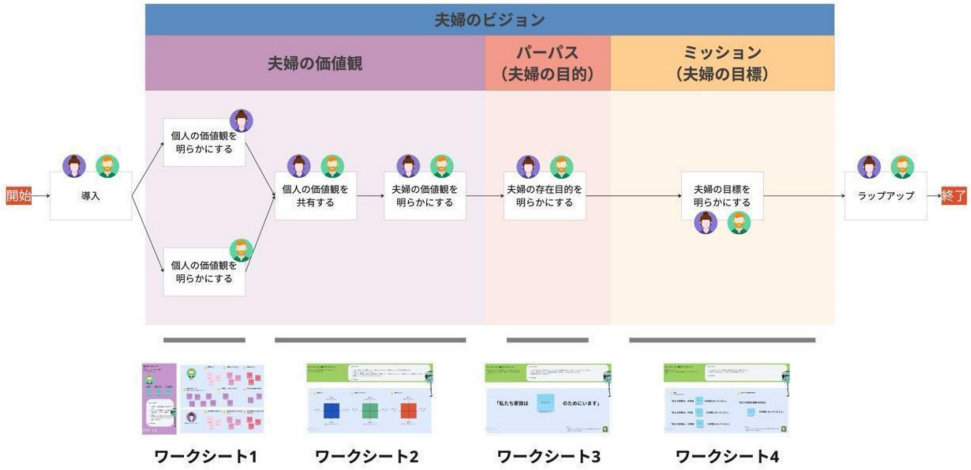


図 29. 夫婦ビジョンの各項目と機能の流れ、ワークシートの関係図

自分自身への問いかけとパートナーからの気づき、さらにディスカッションを通し、夫婦間の相互理解を高めるとともに、コミュニケーションを誘発する。最終的にアウトプットされるワークの結果は、夫婦のビジョンではあるが、直接的に夫婦の幸福度に影響を及ぼさない可能性もあるが、今後の夫婦の指針になり得る。

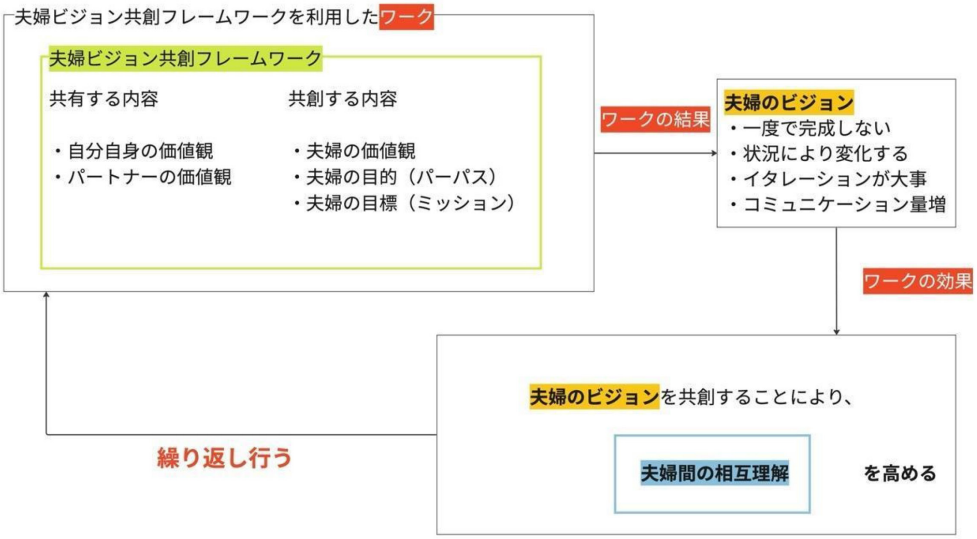


図 30. 夫婦ビジョンフレームワークの運用イメージ

夫婦ビジョン創出フレームワークの運用イメージは図 30、ワークショップの要件は表 9 の通りある。共有される内容は、自分自身の価値観、パートナーの価値観であり、自分自身でのワークとパートナーへの共有、ディスカッションを経て定義するものである。また、共創する内容は、夫婦の価値観、夫婦の目的（パーパス）、夫婦の目標（ミッション）をこちらも、自分自身でのワークとパートナーへの共有、ディスカッションを経て定義する。

自分自身への問いかけとパートナーからの気づき、さらにディスカッションを通し、夫婦間の相互理解を高めるとともに、コミュニケーションを誘発する。最終的にアウトプットされるワークの結果が、夫婦のビジョンである。

表 9.ワークショップの設計要件※プロトタイピング後に改善

項目	設計要件
1 グループの人数	2 名
2 ファシリテーター	1人
3 座席	任意
4 参加者	夫婦もしくは、それに相当するペア
5 導入	簡単なワークの紹介 （10 分）
6 ワーク1（個人）	夫婦の価値観のワーク1 （15 分）
7 ワーク2（共同）	夫婦の価値観のワーク 2 （15 分）
8 ワーク3（共同）	夫婦の目的（パーパス）のワーク 2 （15 分）
9 ワーク 4（共同）	夫婦の目標（ミッション）のワーク （15 分）
10 ラップアップ	振り返り （10 分）

第5章　夫婦ビジョン共創フレームワークの評価

本章では、まず個人の価値観や夫婦としての存在目的、目標を引き出すことができるかを試すため、予備実験を行った。その結果を踏まえ、夫婦ビジョン共創フレームワークに対する本実験を行った。

5.1予備実験

5.1.1　予備実験の概要

表 10.予備実験の概要

日時	2022 年 12 月 25 日(日)22 時 00 分～23 時
場所	東京都内(オンライン)
対象者	2人
目的	1.家族のビジョンのフレームワークをベースとしたビジョン作成シートを利用したワークによって、個人の価値観や夫婦としての存在目的、目標を引き出すことができるか 2.上記を通して、相互理解につながったか
方法	家族のビジョンのフレームワークをベースとしたビジョン作成シートを利用して、個人の価値観や夫婦としての存在目的、目標を引き出すワークを行う

5.1.2　予備実験の結果

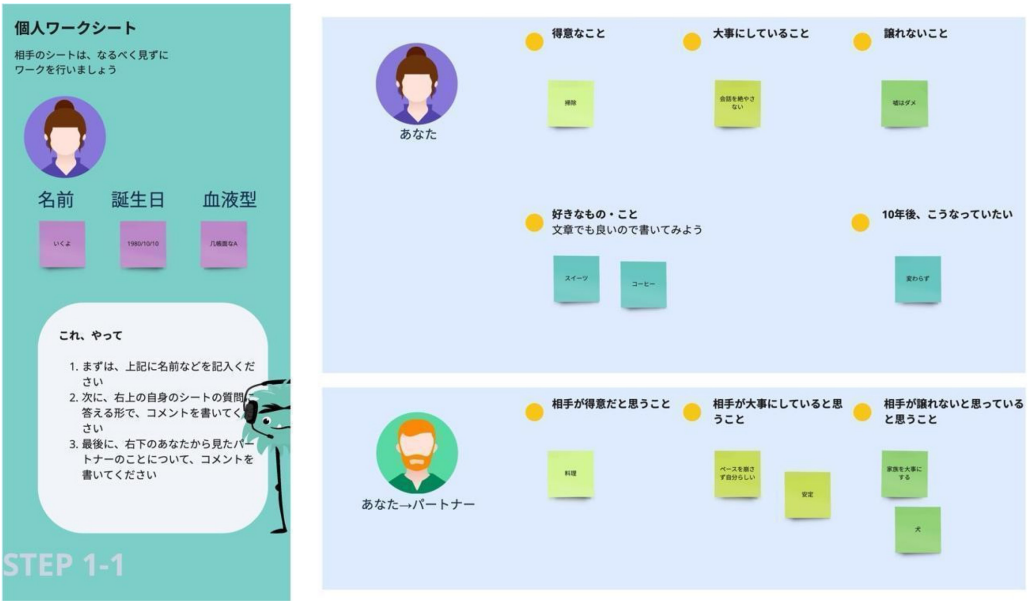


図 31. 予備実験ワーク結果 1

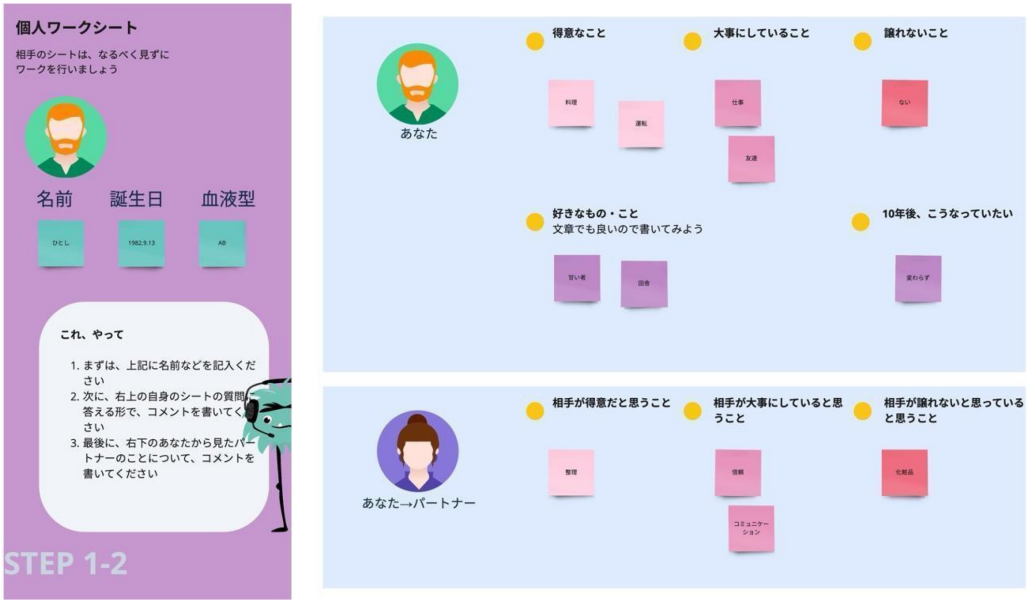


図 32. 予備実験ワーク結果 2

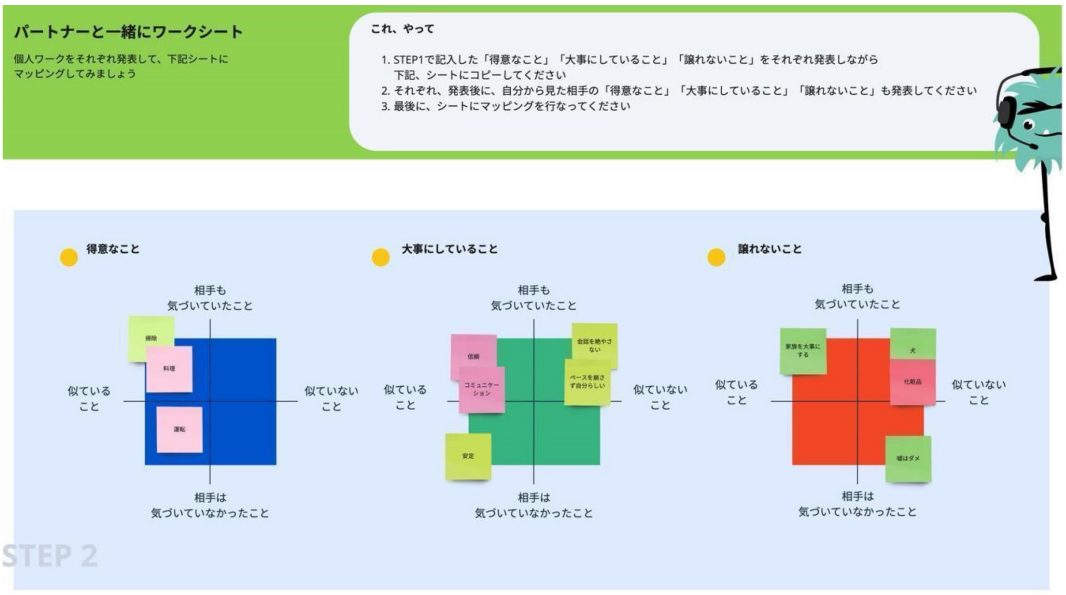


図 33. 予備実験ワーク結果 3

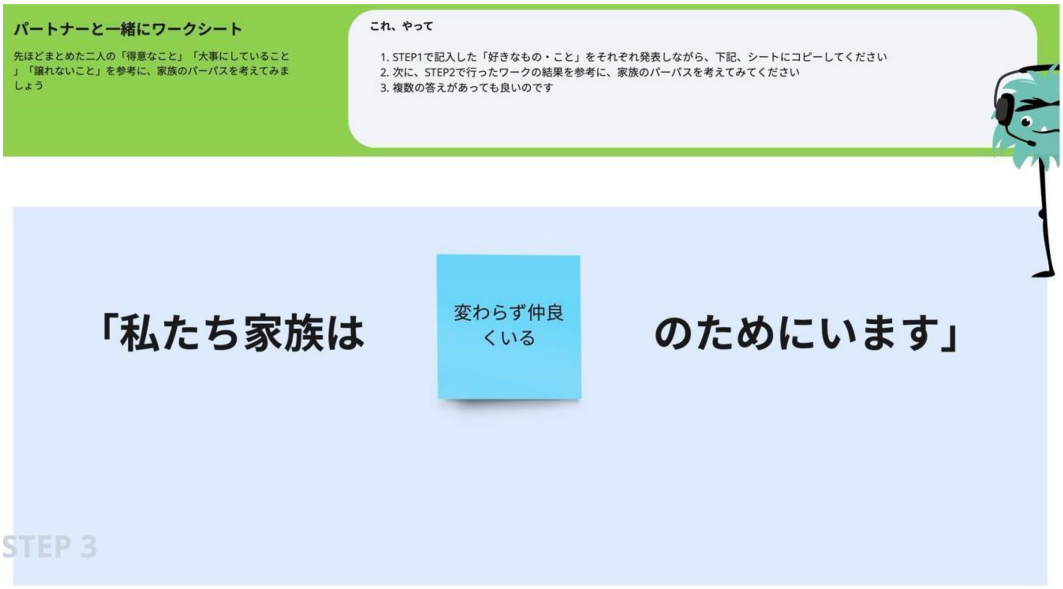


図 34. 予備実験ワーク結果 4

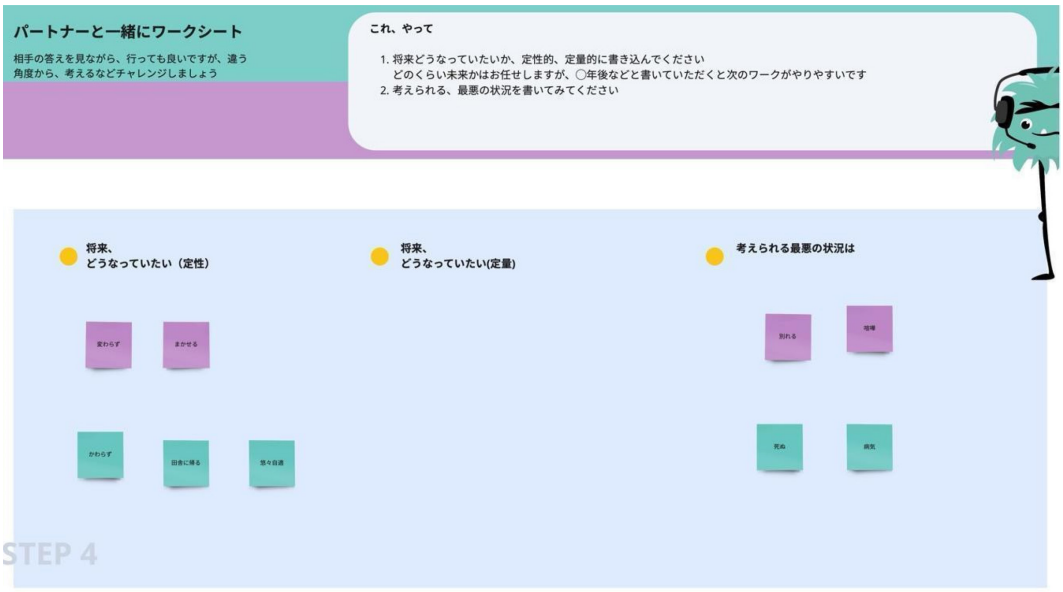


図 35. 予備実験ワーク結果 5

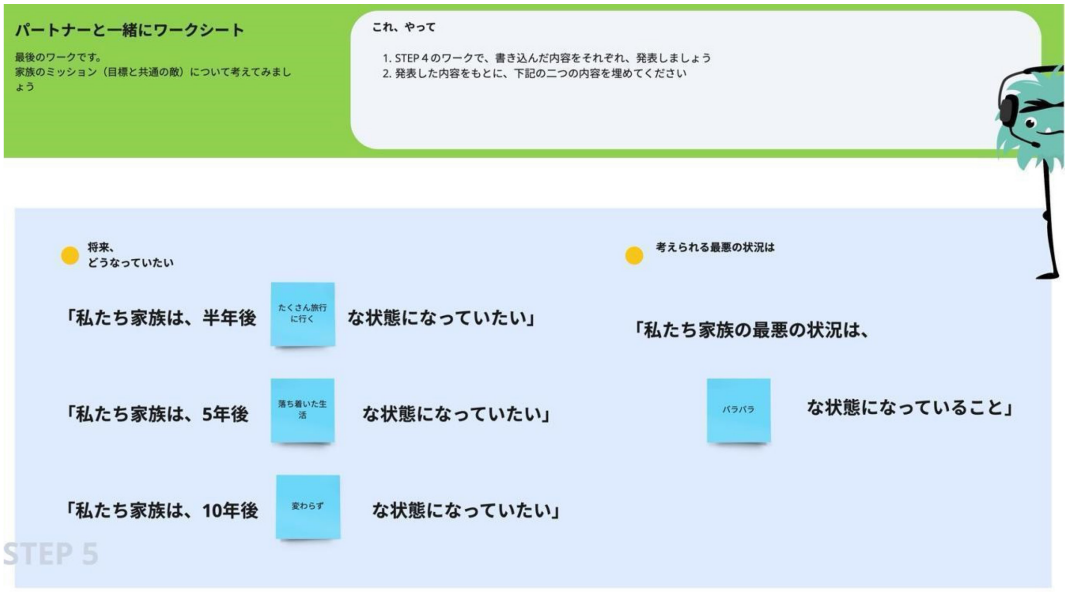


図 36. 予備実験ワーク結果 6

予備実験の日時場所などの概要は表 10、ワークの結果のワークシートは図 31-36 の通りである。まず、1.夫婦ビジョン共創フレームワークを利用したワークによって、個人の価値観や夫婦としての存在目的、目標を引き出すことができるかに関しては、個人ワークおよび夫婦での共同のワークを通して、引き出すことができた。ただ、ファシリテーターとして、筆者がフォローを行ったこともあり、なにもない状態でできたかというと難しい。また、夫婦同士で一定のラインを超えない、共通理解の中での目標を設定するなど、発散的な要素が少なく感じた。

上記を通して、相互理解につながったかについては、ワーク前よりも相互理解について、ポジティブな反応を示したが、これが最善だったかは疑問が残る。

また、説明不足もあり、個人の価値観や夫婦としての存在目的、目標を設定することと、夫婦のビジョンのつながりが見えないという感想があった。

5.1.3 改善

本検証を前に、下記の内容に関して、改善を行った。

・本検証では、ファシリテーターがいる前提での設計を行い、被験者へのサポート、具体的には議論の発散や収束を促す

・シートに、被験者が考えやすくなるようなヒントを記入する

・STEP4 については、定量定性的な目標を出しづらく、STEP1 にどうなっていたいかの質問を記入してもらい、ディスカッションで深ぼってもらうこととした

・シートごとに、制限時間を設ける

・事前に最低限の夫婦のビジョンの考え方に対するインプットを行う

5.2本実験

5.2.1　　本実験の目的

本実験では、提案した夫婦のビジョン、つまり夫婦の価値観、夫婦の目的、夫婦の目標の3要素を可視化するための夫婦ビジョン共創フレームワークを利用したワークを、3組のペアに対して実施する。

本実験の目的は、三点ある。一つ目は、前述したワークを通し、夫婦ビジョン共創フレームワークのワークを通して夫婦の価値観、夫婦の目的、夫婦の目標の3要素の記述ができたかを評価することである。二つ目は、次の2つの仮説（表 11）の評価を通し、夫婦の相互理解ができたかの妥当性確認を行うことである。最後に、夫婦の相互理解を高める行為として、夫婦のビジョンの共創が正しかったかの妥当性確認を行うことである。これらを通し、夫婦ビジョン共創フレームワークの有効性を評価することが本実験の目的である（表 12、図 37）。

表 11.仮説

	内容
仮説1	夫婦のビジョンを設定することにより、お互いの価値観が共有される
仮説2	夫婦のビジョンを設定することにより、自分自身、パートナーへの新たな気づきがある

表 12.実験の目的

	内容
目的１	夫婦ビジョン共創フレームワークのワークを通して、夫婦の価値観、夫婦の目的、夫婦の目標の３要素の記述ができたか
目的２	（仮説１）、（仮説２）を通して、夫婦の相互理解につながったか
目的３	夫婦の相互理解を高める行為として、夫婦のビジョンの共創が正しかったか

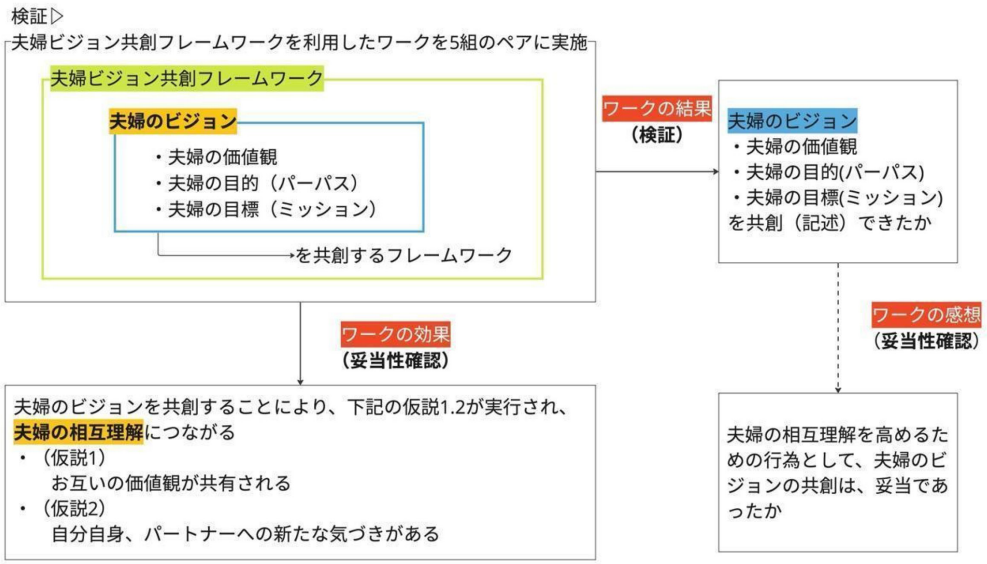


図 37. 実験のイメージ

5.2.2 本実験の評価対象

評価のため、次の 3 組のペア（表 13）を対象にワークを行った。対象者は、夫婦もしくは、それに相当するペアとした。また今回は、夫婦ビジョン共創フレームワークをベースにし、夫婦でのビジョンの共創および仮説の検証と妥当性確認を目的としていることから、ペア揃っての参加を必須とした。合わせて、俯瞰的な評価を行うため、ペアそれぞれの年齢や婚姻歴や子供の有無の制限も設けていない。

表 13.実験の対象者リスト

	事例1	事例2	事例3
実施日時	2023/1/12	2023/1/15	2023/1/16
対象者A（年齢・性別）	45・男	40・男	40・男
対象者B（年齢・性別）	39・女	42・女	40・女
子供有無	有り	無し	有り
婚姻	有り	有り	有り

5.2.3 評価方法

評価方法については、ワークで利用した夫婦ビジョン共創フレームワークでのワーク結果の記述、事前・事後アンケートやインタビューを定性的に評価する（表 14）。

表 14.評価項目と方法

カテゴリー	内容	評価方法
検証 Verification	夫婦の価値観、夫婦の目的、夫婦の目標の3要素の記述ができたか	○ワーク結果の記述 ○事後アンケート ○インタビュー
妥当性確認 Validation	下記、（仮説１）、（仮説２）を通して、夫婦の相互理解につながったか ・（仮説1）ワークを通して、お互いの価値観が共有されたか ・（仮説2）ワークを通して、自分自身、パートナーへの新たな気づきがあったか	○事後アンケート ○インタビュー

妥当性確認 Validation	夫婦の相互理解を高める行為として、夫婦のビジョンの共創が正しかったか	○事後アンケート ○インタビュー

アンケートについて説明する。アンケートの項目は、次の 15 点について、5点法(5 そう思う、4 ややそう思う、3 どちらともいえない、2 あまりそう思わない、1 そう思わない)と記述方式により行った。

問 1:最初の説明で、ビジョンに対して理解は深まりましたか？

問 2:自分自身の価値観は明らかになりましたか？

問 3:自分自身の価値観を相手に共有できましたか？

問 4:相手の価値観を理解できましたか？

問 5:二人の価値観を共創できましたか？

問 6:二人の目的を共創できましたか？

問 7:二人の目標を共創できましたか？

問 8:ワーク全体を通して、ビジョンに対して理解は深まりましたか？

問 9:自分自身への新たな気づきはありましたか？

問 10:パートナーへの新たな気づきはありましたか？

問 11:夫婦ビジョン共創フレームワークを今後も使いたいですか？

問 12:上記、それはなぜかを教えてください。

問 13:あなたがワークショップ直後に感じた「よかったこと」について、コメントがあればお願いいたします。(どんなことでも構いません)

問 14:あなたがワークショップ直後に感じた「よくなかったこと」について、コメントがあればお願いいたします。(どんなことでも構いません)

問 15:ワークショップ全体を通してのコメントがあればお願いいたします。(どんなことでも構いません)

5.2.4 実験結果

(1) 事例 1

・実施日時 2023 年 1 月 12 日(木)15 時 00 分～16 時 30 分

・場所 オンライン

・参加者数 2名(夫:45 歳、妻:39 歳、子供 1 人)

・グループの特性

結婚 10 年目で、小学 2 年生の子供あり。職業は、共に美容関係のバックオフィス、広報系で、職場も同じ。夫が、上司という関係。夫は 2 回目の結婚。

・ワークの結果

STEP1 のワーク結果は表 15 に、STEP2 のワーク結果は図 38 に、STEP3,4 のワーク結果は表 16 にそれぞれ示す。

表 15.事例 1 のワーク STEP1 の結果

STEP1	女性	得意なこと	運転	集中力がある	書道	
		大事にしていること	家族	感謝の気持ち		
		譲れないこと	自分の時間			
		好きなもの・こと	旅行	夜の晩酌		
		将来こうなっていたい	5キロ痩せたい	お金持ち		
		考えられる最悪の状況は	病気	早死		
		相手が得意なこと	パソコンに詳しい	人に興味がない		
		相手が大事にしていること	家族			
		相手が譲れないと思っていること	お酒	タバコ		
	男性	得意なこと	特になし			
		大事にしていること	家族			
		譲れないこと	健康な限り飲酒、喫煙			
		好きなもの・こと	晩酌	ラーメン	漫画	子供と遊ぶ
		将来こうなっていたい	家族が健康で不自由ない暮らし			
		考えられる最悪の状況は	命に関わる病気	事故		
		相手が得意なこと	習字	料理		
		相手が大事にしていること	家族	子供の教育		
		相手が譲れないと思っていること	たくさんある			

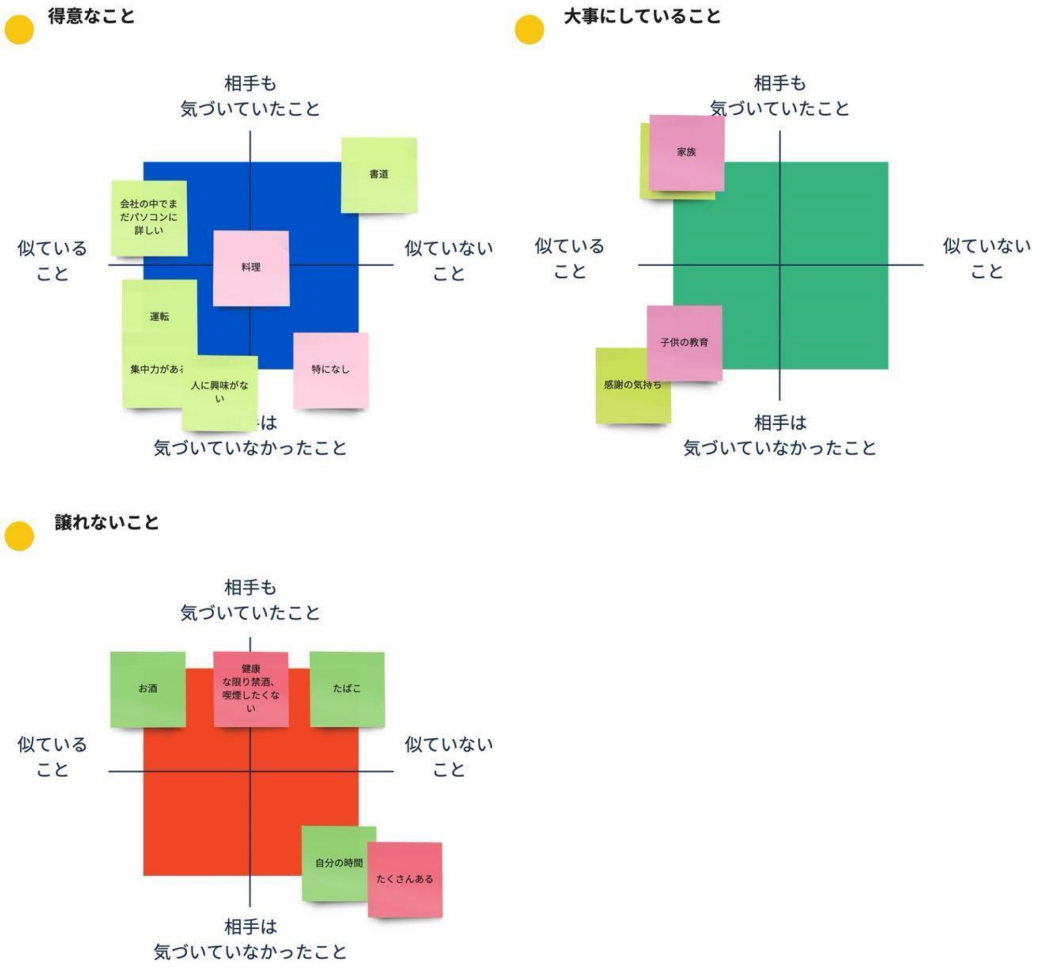


図 38. 事例 1 のワーク STEP2 の結果

表 16.事例 1 のワーク STEP3/4 の結果

STEP3	私たち夫婦は	家族のために協力しながら衣食住や旅行、または家族それぞれの時間を大切にする	ためにいます
STEP4	私たち家族は、半年後	家族が健康で不自由ない暮らしをしている	な状態になっていたい
	私たち家族は、5 年後	家族が健康で不自由ない暮らしをしている	な状態になっていたい
	私たち家族は、10 年後	家族が健康で不自由ない暮らしをしている	な状態になっていたい

	私たち家族の最悪の状況は	全員亡くなっている	な状態になっていること

(2) 事例 2

・実施日時　2023 年 1 月 15 日(日)20 時 00 分～21 時 30 分

・場所　　オンライン

・参加者数　2名(夫:40 歳、妻:42 歳、子供なし)

・グループの特性

2022 年に結婚したカップル。職業は、両者共に警察官。結婚前にお互いの大事にしているものや考え方などを、結婚後に揉めないように話し合って結婚したとのこと。ただ、結婚するために合わせたのではなく、似ていたから結婚した。

・ワークの結果

STEP1 のワーク結果は表 17 に、STEP2 のワーク結果は図 39 に、STEP3,4 のワーク結果は表 17 にそれぞれ示す。

表 17.事例 2 のワーク STEP1 の結果

STEP1	女性	得意なこと	掃除	バスケ	お金の管理	
		大事にしていること	お金	親	夫	犬
		譲れないこと	お互いの両親を大事にする			
		好きなもの・こと	甘いもの	スタバ	温泉	
		将来こうなっていたい	女の子が欲しい	平家のおしゃれな家に住む		
		考えられる最悪の状況は	夫が先に死ぬ	今の生活が崩れる	夫が仕事をクビになる	
		相手が得意なこと	調べ物	家電	料理	
		相手が大事にしていること	両親	仕事		
		相手が譲れないと思っていること	仕事			
	男性	得意なこと	運転	野球	料理	
		大事にしていること	家族(妻、両親、妻の両親)	家	車	犬
		譲れないこと	仕事における信条	お互いの親を大事にする		
		好きなもの・こと	旅行	スタバ	ドライブ	
		将来こうなっていたい	退職後に穏やかに暮ら	奥さんとどちらかの田舎		

			す	に		
		考えられる最悪の状況は	奥さんとどちらかが大病	40 代でクビ		
		相手が得意なこと	掃除	洗濯		
		相手が大事にしていること	家族	お金の管理		
		相手が譲れないと思っていること	家族	美容		

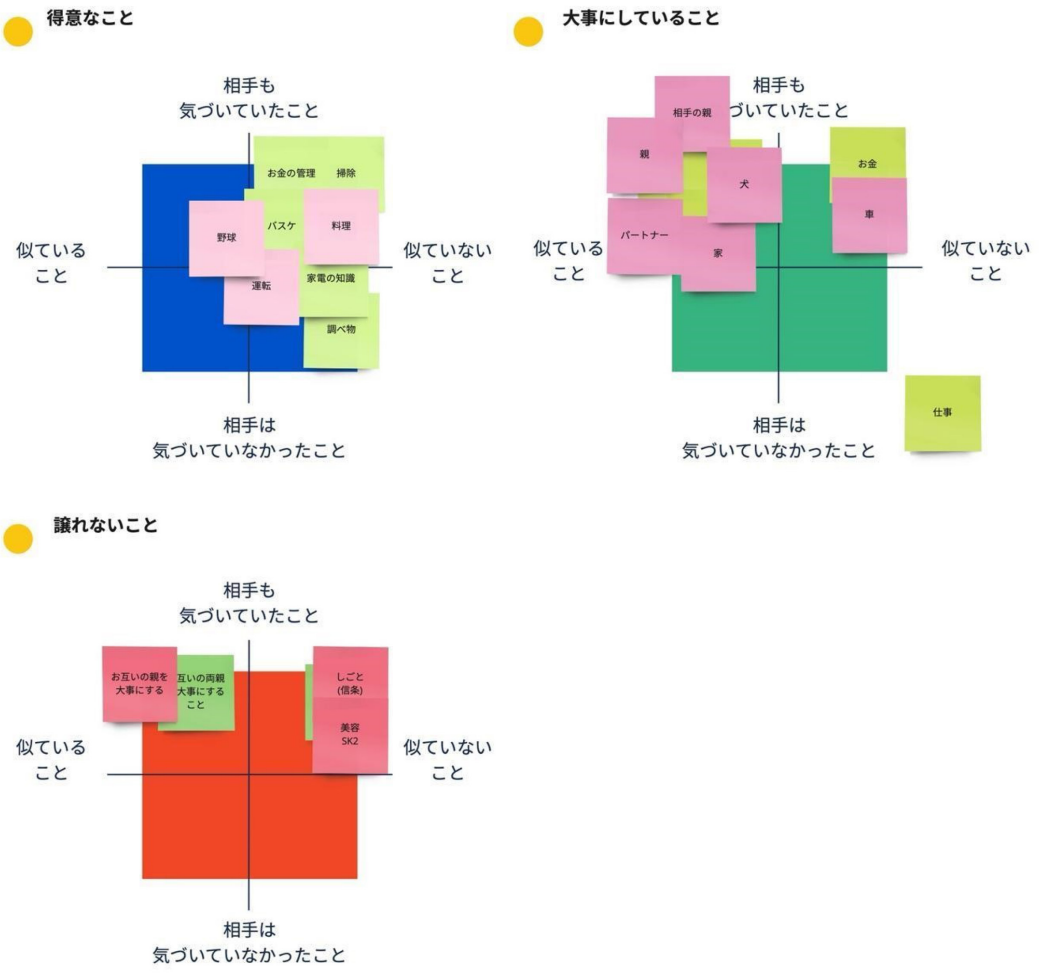


図 39. 事例 2 のワーク STEP2 の結果

表 18.事例 2 のワーク STEP3/4 の結果

STEP3	私たち夫婦は	当たり前(今の状態＝幸せ)を当たり前に続ける	ためにいます

STEP4	私たち家族は、半年後	今の状態の維持	な状態になっていたい
	私たち家族は、5 年後	生活が楽になるようにキャリアアップ	な状態になっていたい
	私たち家族は、~~10 年後~~	退職後、穏やかに暮らす	な状態になっていたい
	私たち家族の最悪の状況は	今の生活が崩れる	な状態になっていること

(3) 事例 3

・実施日時　2023 年 1 月 16 日(月)22 時 00 分～23 時 30 分

・場所　　オンライン

・参加者数　2名(夫:40 歳、妻:40 歳、子供あり)

・グループの特性

大学時代からの付き合いで、出会って 20 年、結婚 10 年目。小学 2 年生の子供あり。女性がジュエリーブランドを自営している。将来的には、二人でショップ経営をめざしている。

・ワークの結果

STEP1 のワーク結果は表 19 に、STEP2 のワーク結果は図 40 に、STEP3,4 のワーク結果は表 20 にそれぞれ示す。

表 19.事例 3 のワーク STEP1 の結果

STEP1	女性	得意なこと	アイデア出し	好きなことをする	デザイン	
		大事にしていること	オリジナリティ	家族		
		譲れないこと	好きなものに囲まれた生活	自分に正直でいること		
		好きなもの・こと	デザインすること	可愛いもの集め(メルカリ)	家族	仕事
		将来こうなっていたい	夫と仲良くゆったり暮らす	お金の心配なく暮らす	おしゃれな家で暮らす	
		考えられる最悪の状況は	病気	夫・子供がいない		
		相手が得意なこと	整理整頓	人の話を聞く	ほどほどに進める	
		相手が大事にしていること	整った空間	バランス良く幅広い分野を押さえる	安定	

		相手が譲れないと思っていること	整った空間	バランス	やさしさ	
	男性	得意なこと	整理・整頓	人の話を聞く	即決・取捨選択	
		大事にしていること	無駄遣いしない・リソースを大事にする	思いやりをもつ	全体把握	
		譲れないこと				
		好きなもの・こと	ウイスキー、ビール、コーヒー、飲み物全般	貯蓄		
		将来こうなっていたい	毎日気分良く生きる	親子仲良く		
		考えられる最悪の状況は	自分の死	家族の死		
		相手が得意なこと	選択肢を広げる	相手の懐に入る		
		相手が大事にしていること	家族仲良くすること	いい仕事をすること		
		相手が譲れないと思っていること	ものづくり			

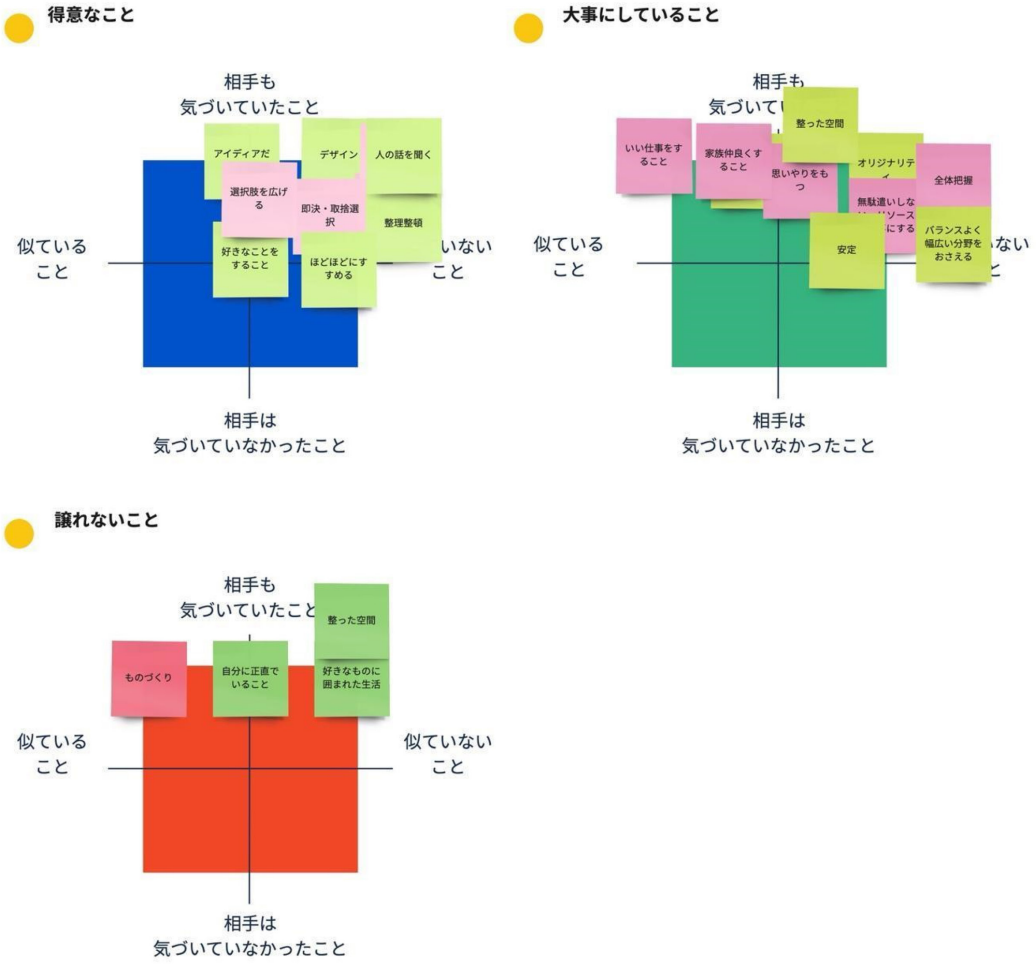


図 40. 事例 3 のワーク STEP2 の結果

表 20.事例 3 のワーク STEP3/4 の結果

STEP3	私たち夫婦は	互いをサポート(応援・支援・援助・補完・癒やす)する子供を応援する家族で楽しむ	ためにいます
STEP4	私たち家族は、半年後	互いのストレスを下げる	な状態になっていたい
	私たち家族は、5 年後	経済的、精神的、時間的に余裕を持った	な状態になっていたい
	私たち家族は、10 年後	二人が融合するようなストレスゼロ	な状態になっていたい

	私たち家族の最悪の状況は	家族の誰かが欠ける	な状態になっていること

5.2.5 事後アンケート

アンケートの項目は、次の 15 点について、5点法(5 そう思う、4 ややそう思う、3 どちらともいえない、2 あまりそう思わない、1 そう思わない)と記述方式により行った。

問 1:最初の説明で、ビジョンに対して理解は深まりましたか？

問 2:自分自身の価値観は明らかになりましたか？

問 3:自分自身の価値観を相手に共有できましたか？

問 4:相手の価値観を理解できましたか？

問 5:二人の価値観を共創できましたか？

問 6:二人の目的を共創できましたか？

問 7:二人の目標を共創できましたか？

問 8:ワーク全体を通して、ビジョンに対して理解は深まりましたか？

問 9:自分自身への新たな気づきはありましたか？

問 10:パートナーへの新たな気づきはありましたか？

問 11:夫婦ビジョン共創フレームワークを今後も使いたいですか？

問 12:上記、それはなぜかを教えてください。

問 13:あなたがワークショップ直後に感じた「よかったこと」について、コメントがあればお願いいたします。(どんなことでも構いません)

問 14:あなたがワークショップ直後に感じた「よくなかったこと」について、コメントがあればお願いいたします。(どんなことでも構いません)

問 15:ワークショップ全体を通してのコメントがあればお願いいたします。(どんなことでも構いません)

問 1 から問 11 までは、5点法(5 そう思う、4 ややそう思う、3 どちらともいえない、2 あまりそう思わない、1 そう思わない)で行った。それぞれの回答は下記になる。(表 21,図 41)

表 21.実験のアンケート結果(問 1-問 11)

	質問	事例 1		事例 2		事例 3	
		女性	男性	女性	男性	女性	男性
問 1	最初の説明で、ビジョンに対して理解は深まりましたか？	5	5	4	4	5	5
問 2	自分自身の価値観は明らかになりましたか？	5	5	5	4	5	4
問 3	自分自身の価値観を相手に共有できましたか？	5	4	5	5	5	5
問 4	相手の価値観を理解できましたか？	5	4	5	5	5	5
問 5	二人の価値観を共創できましたか？	5	4	5	5	5	5
問 6	二人の目的を共創できましたか？	5	4	5	5	5	5

問 7	二人の目標を共創できましたか？	5	4	3	5	4	4
問 8	ワーク全体を通して、ビジョンに対して理解は深まりましたか？	5	5	5	4	5	5
問 9	自分自身への新たな気づきはありましたか？	5	3	2	4	4	4
問 10	パートナーへの新たな気づきはありましたか？	5	4	4	4	3	3
問 11	夫婦ビジョン共創フレームワークを今後も使いたいですか？	4	4	5	5	5	5

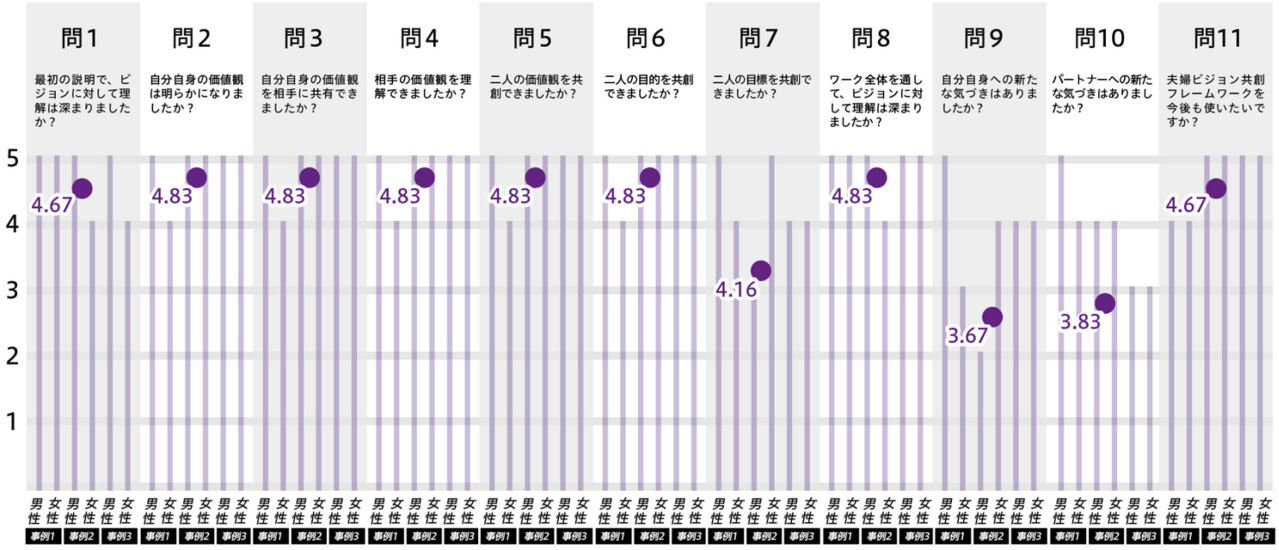


図 41. アンケート結果のグラフ

問 12 から問 16 までは、記述式でそれぞれの回答は下記になる。(表 22)

表 22.実験のアンケート結果(問 12-問 16)

		問 12 上記、それはなぜかを教えてください。	問 13 あなたがワークショップ直後に感じた「よかったこと」について、コメントがあればお願いいたします。	問 15 あなたがワークショップ直後に感じた「よくなかったこと」について、コメントがあればお願いいたします。	問 16 ワークショップ全体を通してのコメントがあればお願いいたします。
事例 1	女性		楽しかった	特になし	面白かった
	男性	時が経てば価値観も変化するから	普段あまり話せないことを話せて良い	特になし	夫婦で可視化するツールとして良い
事例 2	女性	相手の考え方の変化に気づけないこともあるから	相手の考え方を確認できた	ありません	ライフスタイルや考え方が変わる可能性もあるから、節目の年に実施したい
	男性	パートナーの知らない目標を知ること	自分達の大事にしていることの本質が見	よくなかったことは特にないが、初めて聞く単	パートナーとの今後の生活の参考

		ができ、考える機会をもらえたと思うから	えた	語が多く最初は戸惑った	になった。1 年に 1 回くらいやるとその時々のパートナー間の関係の改善になると思う
事例 3	女性	端的な言葉にすることでわかりやすくなったから	面白かった	特になし	今回のような内容を、普段から相手との関係で意識したり、話すことで、ノリ良い関係が築けることは間違いないと思った。
	男性	夫婦の目的の確認が残る。記録が残る	現状の互いの理解できているところ、理解できていないところの確認ができてよかったと思う	特にないが相手の気分を害する結果になる夫婦も出てくると思う	結婚歴、子供の有無によっても傾向が異なるように思う

第6章　考察

本章では、提案した夫婦のビジョン、つまり夫婦の価値観、夫婦の目的、夫婦の目標の3要素を可視化するための夫婦ビジョン共創フレームワークを利用し、3 組のペアに対して実験した前章の結果を踏まえ、全体の考察を行う。

6.1実験の結果から検証および妥当性確認

実験の目的は、三点である。一つ目は、夫婦ビジョン共創フレームワークのワークを通して夫婦の価値観、夫婦の目的、夫婦の目標の3要素の記述ができたかを検証することである。二つ目は、2つの仮説の評価を通し、夫婦の相互理解ができたかの妥当性確認を行うことで

ある。最後に、夫婦の相互理解を高める行為として、夫婦のビジョンの共創が正しかったかの妥当性確認を行うことである。これらを通し、夫婦ビジョン共創フレームワークの有効性を評価するために実験を行った。まず一つ目の検証、夫婦の価値観、夫婦の目的、夫婦の目標の3要素の記述ができたかについては、ワークシートの記述結果（量）と、ワーク時の様子、アンケートから、夫婦の価値観、夫婦の目的、夫婦の目標の3要素の記述ができたと判断する。また、上記3要素のベースとなる自分自身の価値観を明らかにするワークの記述も、一部回答の量に個人差がある質問はあったが、記述できていた。個人の記述不足に関しては、共同ワークのディスカッションを通し、追加で記述されており、夫婦共同の記述ということに関しては達成されている。但し、夫婦の目標については、全被験者共通して、最悪の状況を死に関するような記述をしたり、事例1の夫婦は年ごとに分けた目標全て同じ回答を行うなど、記述はできたものの精度が高いとは言い切れず、アンケートの結果も唯一4．5 点を下回る結果となった。二つ目のワークを通して、お互いの価値観が共有されたか、自分自身、パートナーへの新たな気づきがあったかの評価を通し、夫婦の相互理解ができたかの妥当性確認を行うに関してである。前者は、アンケートの自分の価値観を共有できたか、また相手の価値観を理解できたかの回答が高い数値を示していることから達成されたと判断できる。後者については、事例により自分自身への新たな気づきがあったペアとパートナーへの新たな気づきがあったペアが見られた。こちらに関しては、一部個人でほとんど気づきがない被験者もいた。これらの結果から、一定の妥当性が確認できたと判断する。三つ目に、夫婦の相互理解を高める行為として、夫婦のビジョンの共創が正しかったかの妥当性確認を行うことである。アンケートのまたワークを行いたいかという質問に対し、行いたい側に高い数値を示していること、さらにその理由が簡単な言葉で言語化できた、記録性があるなど夫婦ビジョンフレームワークの特徴を複数捉えていることから、夫婦の相互理解を高める行為として、夫婦のビジョンの共創が正しかったと判断する。また、ワークを通し、相互理解の要素である、視点の交換や会話の構造化、信頼性の構築ができたためであると考える。

6.2夫婦ビジョンフレームワークの有効性

本研究は、夫婦 3 ペアに対して 1 回の実験で評価を行なったが、夫婦ビジョン共創フレームワークの評価を得ることができた。研究目的である夫婦もしくはそれに相当するペアが相互理解を高めるための夫婦ビジョン共創フレームワークの提案と検証については、お互いの価値観を共有することが相互理解につながり、夫婦のビジョンの共創が夫婦の相互理解を高める行為として一定の有効性があることが明らかになった。実験のワーク結果およびワーク中の会話やアンケートから、夫婦ビジョン共創フレームワークの機能が、相互理解を促進の3つのプロセスである相手の視点に立つことのできる視点の移行。会話の構造化。信頼の確立を促進する働きを行ったことが大きいことも明らかになった。視点の移行については、それぞれ個々人の価値観を明らかにするワークの際に、自身から見た相手の価値観も記述し、さらに自身の価値観を共有し合う際にそれに相手は気づいていたか、気づいていなかったか、自分も気づいていないような相手から見た価値観はなかったかなどディスカッションを行った。また、お互いの価値観を 2 軸図にマッピングすることで、二人の価値観を共創するワークも行い、自身と相手の視点を行き来し、さらには二人の視点という俯瞰的な目線でも考えられたことが、視点の移行のプロセスになったと推測する。そして、トランザクションマネジメントについても、本提案はフレームワーク化されているため段階的に発散と収束、個人ワークと共同ワークが時間で区切られていること、さらにはデジタル付箋を利用して見える化し、構造化されるため実現されたと考える。被験者のアンケートにあった端的な言葉でまとめられたや、記録として残せる、普段話せなかったことが話せたというのは、夫婦ビジョン共創フレームワークが有効に働き、トランザクションマネジメントを実現した成果と言える。最後に当たり前であるが、普段行わないワークを行い、1 時間以上自身の価値観をベースに、二人でビジョンを共創するために、ディスカッションを起こったため、コミュニケーション量がアップし、信頼の確立にもつながった。また、普段のコミュニケーションと夫婦ビジョン共創フレームワークを利用した際のコミュニケーションの違いは、気づいていなかったお互いの価値観が明らかになったとアンケートで答えており、普段は分かったつもりでいることでも、ワークを通して明らかになることがあることがわかった。なお、結婚歴 10 年程度の事例 1、事例 2 のペアは、相手の価値観への気づきがあったとし、新婚の事例 3 のペアについては、自身の価値観への気づきがあったほうがポイントが高くなっている。これは、結婚歴が長いペアは、相手のことをわかったつもりになっているが、変化があるため、その変化に気づけていないのではとアンケートの自由回答から推測される。また、新婚のペアについては、相手と話すことで自分で気づいていなかった自分の価値観に気付いたとワーク中に会話されていた。さらには、事後のヒアリングで、全夫婦が実験のあと、ビジョンに関わる価値観の話や将来の話などを引き続き行ったと話していた。以上のことから、夫婦ビジョンのフレームワークは、夫婦間の相互理解を高めることに一定の有効性があることが示された。今後、ブラッシュアップを行いオンラインサービス化を行うことで、より簡単にだれでも、繰り返し行え、保存性があり、見返すことのできるツールになると考える。また、結婚前のタイミングやライフタイムイベント、また企業の福利厚生に取り入れることで、ビジョン

の理解に貢献するとともに、家庭での幸福度が上がり、社員の生産性も上がると考える。

6.3今後の課題

6.3.1　　被験者数の増加

本研究では、予備実験1ペアと本実験3ペアに対して検証を行った。夫婦ビジョン共創フレームワークが、夫婦間の相互理解を高めることは明らかになったが、例えば結婚歴や子供の有無、職業など夫婦間の属性により、どのような違いがあるかまでは明らかにできなかった。また、付き合いたてのカップルのように一緒にいる時間の短い夫婦になる前のペアや離婚したペア、国籍結婚や文化的背景の違いなどさまざまな検証を行うことにより、効果がある属性を明らかにでき、利用するシチュエーションやタイミングなど、より効果的な利用に対する提案ができると考える。今回の検証の中でも、当初 1 年に 1 回程度や、ライフイベントの際の利用を想定していたが、日々の会話や行動で変化を感じた場合、見返したり、ワークを行うと本人も気づかない変化がわかるのではないかというコメントも被験者からあった。

6.3.2　　検証回数や検証期間の改善

今回の検証は、1ペアに 1 回の実験を行ってもらった。しかし、設計上、複数回繰り返すことで相互理解は高まることが想定される。ビジョンの定義の中の夫婦の目的（パーパス）は大きく変わるものではないが、夫婦の目標（ミッション）は期間のある目標であること、また個人の価値観も時間が経つごとに変わるものであるため、継続しての検証による効果をあきらかにすることが好ましい。また、ワーク後数週間の反応を見て、行動が変わったかを調査するなど、相互理解を高めるという目的以外の夫婦ビジョン共創フレームワークの効果を明らかにできなかったが、被験者から単純に面白かった、楽しかった、他のペアのワーク結果も見てみたいというさまざまな意見があり、今後の参考にしたい。

6.3.3　　ファシリテーション機能の実現

夫婦ビジョン共創フレームワークを利用したワークを行う際、今回はプロトタイプであるため、筆者がファシリテーターとして参加し、ワークの進行や議論の収束や発散に協力を行った。本来、誰でも手軽に利用できることを目標としているため、今後のブラッシュアップでは、ファシリテーターに代わる機能を備えたアプリ化や、よりわかりやすさを重視したカードゲーム化、また大人数でコミュニティ化して知見を共有するなどが良いと考える。また、今回はオンラインホワイトボードツールを利用して、プロトタイプを行ったが、被験者が全員簡単に利用できるものではなかったため、こちらも簡単に利用でき、ワーク結果を見返すことができるアプリやその他の施策を検討することが望まれる。

第7章　まとめ

本研究では、先行研究で明らかになっている企業経営におけるビジョンの重要性や影響の認識、またビジョンの定義やフレームワーク、さらに家族をシステムと捉えマネジメントを行うことの有用性を前提に、家族におけるビジョンの定義やフレームワークを、家族の中でも夫婦にスコープを絞り、夫婦のビジョンの設定を行うことにより夫婦間の相互理解が高まるという仮説のもと、夫婦ビジョン共創フレームワークを提案した。具体的には、提案する夫婦ビジョン共創フレームワークが、夫婦もしくはそれに相当するペアに対し、個々人の価値観の認識とパートナーへの共有、さらに夫婦として共通の価値観、目的（パーパス）や目標（ミッション）、つまり夫婦ビジョンの共創を行うことにより相互理解を高めることができるか、その有効性を検証した。検証では、夫婦3ペアに行った実験から、ビジョン共創フレームワークが相互効果を高めること、また夫婦の相互理解を高める行為として、夫婦ビジョン共創フレームワークに一定の有効性があることが示された。今回の検証では、3 ペアの実験であったが、今後、例えば結婚歴や子供の有無、職業など夫婦間の属性により、どのような違いがあるかや、付き合いたてのカップルのように一緒にいる時間の短いペアや離婚したペア、国籍結婚や文化的背景の違いなどさまざまなペアに検証を行うことにより、効果がある属性を明らかにでき、利用するシチュエーションやタイミングなどをより効果的な利用に対する提案ができると考える。さらに、機能のブラッシュアップはもちろん、オンラインサービス化を行うことで、より簡単にだれでも、繰り返し行え、保存性があり、見返すことのできるツールになると考える。

今後さらに、多様性が認められ、一人ひとりや社会全体の幸福が重要視される現代だからこそ、夫婦においても、お互いの価値観を尊重しあう、つまり相互理解をしあうことがより重要であり、そしてこの研究がその一助になることを願う。また、本研究をきっかけに、夫婦もしくはそれに相当するペアだけではなく、さまざまな関係性のチームやプロジェクトにビジョン共創フレームワークの概念が展開され、自身の価値観に基づいたビジョンファーストな生き方や働き方が認められる幸福を中心とした社会になるよう今後も研究を進めていきたい。

謝辞

本論文完成までに、数えきれない方々からのご支援をいただき、深く感謝いたします。本来であれば、関わった全ての方々のお名前を挙げ、お礼をお伝えしたいところですが、紙面にも限りがあるため、直接のご支援、ご配慮を賜った方々のお名前を記し、謝辞とさせていただきます。

指導教員の神武直彦教授にまず御礼を申し上げます。修士論文の執筆にあたり、研究テーマの設定から、研究の進め方、論文の執筆など本研究全般にわたり、昼夜問わずご指導をいただき、心より感謝しております。本研究だけではなく、休学期間を含めたこの4年間は、私の人生の中で大変貴重な経験となり、この学びを今後の人生にも活かしていきたいと思います。研究以外でも、今後もお世話になると思いますので、引き続きよろしくお願いいたします。副査の春山真一郎教授にも研究指導いただきましたこと、感謝申し上げます。見る方により理解の難しい研究に対して、テーマや課題の見せ方など親身になりアドバイスをいただきました。そのアドバイスのおかげで、悩んでいた見せ方などクリアになり、最終的な形に落とし込むことができました。前野隆司教授にも、本研究にあたり大変お世話になりました。幸福学に出会ったことで視野が広がったことはもちろん、本研究をどのように形作っていくのか、研究の体をなしていない頃から、講義や研究室での相談、発表の機会をいただき、前野研究室の皆様からアドバイスまでいただき、大変感謝しております。米澤創一特別招聘教授にも、大変お世話になり感謝申し上げます。システムやプロジェクトの可能性や汎用性、面白さに気づかせていただき、家族や夫婦をシステムと捉えた研究を行いたいと相談した際も、親身になり話を聞いていただき、参考文献もご紹介いただきました。共に入学した研究室の同期にも感謝申し上げます。同時期に修了はできませんでしたが、休学までの一年半共に研究し、とても刺激になりました。また修了後も、修了生の先輩として、友としてたくさんの刺激やアドバイスをいただき、感謝しています。成田忍さん、服部昇さん、渡邉泰行さん、池田壮志さん、増渕舜一さん、本当にありがとうございました。あわせて、休学後の同期メンバーとなった冨田悠貴さん、森井貴弘さん、荒井里美さん、川島颯さん、寺廻健太さん、永井秀幸さん、中村征史さん、金田由妃さんには、途中から参加したにも関わらず、優しく迎えてくださり、研究内容や進め方などアドバイスをいただき、大変感謝しています。本研究を進めるにあたり、神武研究室の小高暁特任准教授、西野瑛彦特任助教のお力添えなしでは、完成できませんでした。研究テーマや研究の進め方で悩んだ時にご相談に乗っていただき、的確な研究のアドバイスはもちろん、それ以上に精神的に大変助けていただきました。ありがとうございました。また追い込み時期に、サポートをいただいた博士課程のセキウンエイさん、M1 の宮崎莉加さん、修論合宿でアドバイスをいただいた神武研究室 OB の佐藤章博さん、平田大輔さんはじめ、神武研究室関係者の皆様に心よりお礼申し上げます。

そして、大学院で学び、そして研究できたのは、田中邦裕社長、矢部真理子部長、上田晋司執行役員、山崎秀人執行役員、菅谷智洋さん、小林潤さん、寺田正弘さんをはじめとするさくらインタ

ーネットのみなさまのご支援があったからです。慣れない環境や初めての経験も多く両立に苦労した時期もありましたが、サポートまた応援くださり感謝しています。進学に対して背中を押してくださり、時には相談にも乗ってくださった小笠原治さんや若狭敏樹さんにも感謝しています。ありがとうございました。

家族、友人にも感謝を述べたい。パートナーのお義母さんの菊地明子さん、研究中に生まれてきてくれたなるさん、まだお腹の中にいる正虎くん、祖父母の浅川正憲さん・多美子さん、父の正俊さん、妹家族の園田大さん・知紗さん・樹くん、友人夫婦の坂槇仁さん・育代さん、黒川雄太さん・園子さん、みなさんの支えのおかげで、本論文を書き切ることができました。本当にありがとうございました。この他にも、たくさんの方々の協力のもと、本論文を完成させることができました。心より感謝申し上げます。

最後に本研究のきっかけにもなったパートナーの菊地静香。あなたのおかげでとても楽しい、みんなにおもしろいねと言ってもらえる論文執筆ができました。ありがとう。ぼくらのビジョン、5メートル周りの人を笑顔にするを大切に、周りをめちゃくちゃ笑顔にできるよう自分達が一番めちゃくちゃくちゃ笑って楽しく、夫婦プロジェクトを続けていきましょう。

2023 年 3 月　竹林正豊

参考文献

［1］経済産業省（2020）「VUCA（ブーカ）時代とダイナミック・ケイパビリティ論」https://www.meti.go.jp/report/whitepaper/mono/2020/honbun_html/honbun/101021_2.html（閲覧日：2023 年 1 月 19 日）

［2］朝日新聞　SDGs ACTION（2022）「世界はグレート・リセットされていく」https://www.asahi.com/sdgs/article/14678898（閲覧日：2022 年 11 月 29 日）

［3］内閣府（2022）「第 5 回 新型コロナウイルス感染症の影響下における生活意識・行動の変化に関する調査」https://www5.cao.go.jp/keizai2/wellbeing/covid/pdf/result5_covid.pdf（閲覧日：2022 年 11 月 29 日）

［4］厚生労働省（2021）「育児・介護休業法について」https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000130583.html（閲覧日：2022 年 11 月 29 日）

［5］新 R25（2019）「血縁関係のない他人でも「家族」と思える。60 人と暮らす石山アンジュに聞く“拡張家族”論」https://r25.jp/article/669402776293200748（閲覧日：2022 年 11 月 29 日）

［6］杉山由美子（2014）「卒婚のススメ」静山社

［7］離婚弁護士ナビ（2022）「日本の夫婦の離婚率は 35%！実態と原因・離婚回避のためにできること」https://ricon-pro.com/columns/81/（閲覧日：2023 年 1 月 19 日）

［8］第一生命経済研究所（2021）「ここが知りたい『国民全体の幸せの指標、GDW（Gross Domestic Well-being）に注目』」https://www.dlri.co.jp/report/dlri/179355.html（閲覧日：2022 年 11 月 29 日）

［9］内閣府（2021）「関係府省庁における Well-being 関連の 基本計画等の KPI、取組・予算（概要）」https://www5.cao.go.jp/keizai2/wellbeing/action/pdf/shiryou1.pdf（閲覧日：2022 年 11 月 29 日）

［10］内閣府（2021）「第1回 Well-being に関する関係府省庁連絡会議」https://www5.cao.go.jp/keizai2/wellbeing/action/20210730/agenda.html（閲覧日：2022 年 11 月 29 日）

［11］トヨタ自動車株式会社（2022）「トヨタフィロソフィー」https://global.toyota/jp/company/vision-and-philosophy/philosophy/（閲覧日：2022 年 11 月 29 日）

［12］ソフトバンクグループ（2022）「理念・ビジョン・戦略」https://group.softbank/philosophy（閲覧日：2022 年 11 月 29 日）

［13］前野隆司（2014）幸せのメカニズム　実践・幸福学入門 講談社

［14］岩上真珠（2013 年）ライフコースとジェンダーで読む家族　有斐閣

［15］渡辺尚志（2009）百姓たちの江戸時代ちくまプリマー新書

［16］厚生労働省（2022）「女性活躍推進法の改正」
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000091025.html（閲覧日：2023 年 1 月 19 日）

［17］フレデリック・ラルー（2018）ティール組織　マネジメントの常識を覆す次世代型組織の出現

［18］経済産業省（2016）「新たな自律・分散・協調型アーキテクチャー・技術戦略等に関する、これまでの WG の議論の整理」
https://www.meti.go.jp/report/whitepaper/mono/2020/honbun_html/honbun/101021_2.html（閲覧日：2023 年 1 月 19 日）

［19］Collins, J. (2009). Good to Great-(Why some companies make the leap and others don't).

［20］Margaret Tan(1994)"Establishing Mutual Understanding in Systems Design: An Empirical Study"

［21］Linda K. Acitelli, Elizabeth Douvan, and Joseph Veroff(2006)" Perceptions of Conflict in the First Year of Marriage: How Important are Similarity and Understanding?,"

［22］Pasch, L. A., & Bradbury, T. N.(1998)"Social support, conflict, and the development of marital dysfunction."

［23］坂下 昭宣. (1995). 創業経営者のビジョナリー・リーダーシップと組織文化. 岡山大学経済学会雑誌, 26(3-4), 105-119.

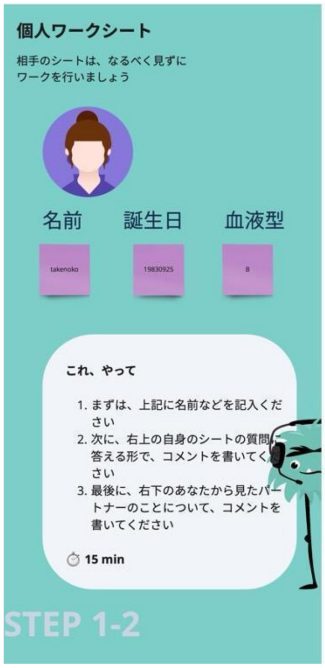
［24］松葉博雄. (2008). 経営理念の浸透が顧客と従業員の満足へ及ぼす効果 事例企業調査研究から. 経営行動科学, 21(2), 89-103.

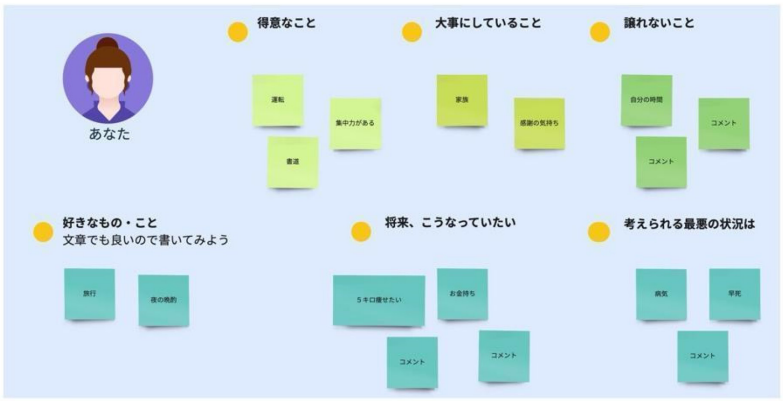
［25］加藤めぐみ,谷口尚子. (2019). "家庭マネジメント" の提案：共働き夫婦の意識化と行動変容を例として. 慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科

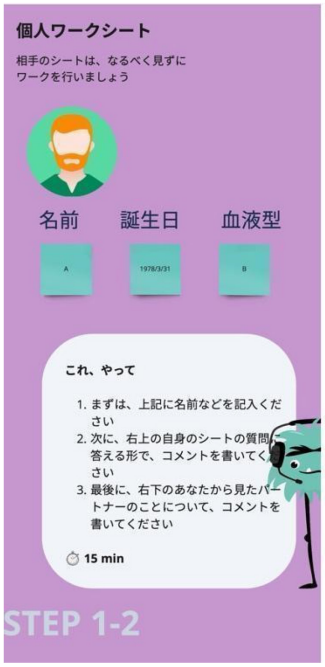
APPENDIX

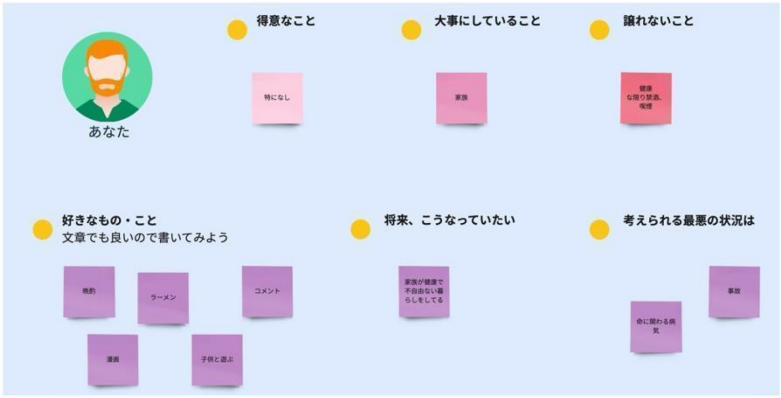
●本実験ワーク結果

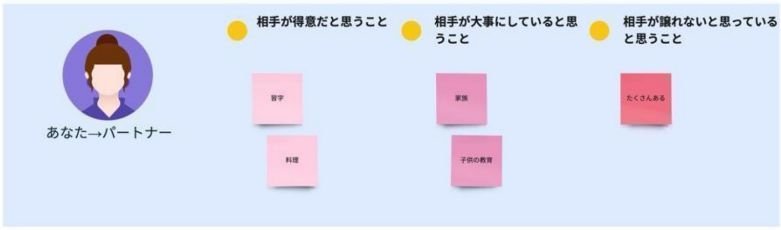
事例 1

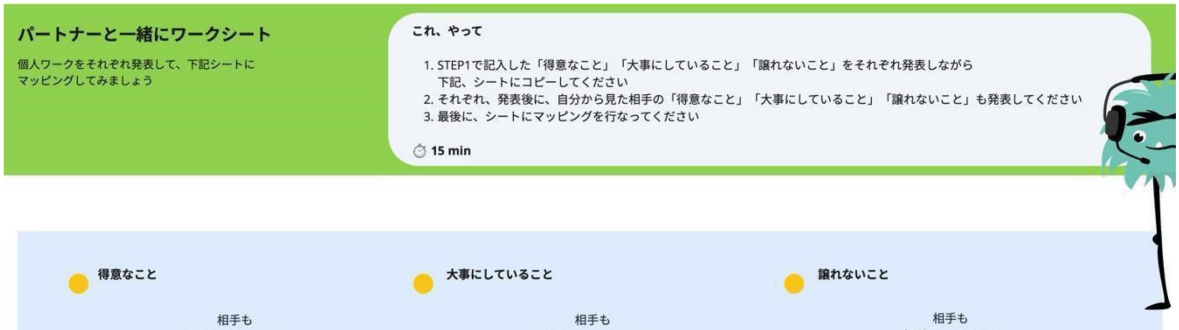


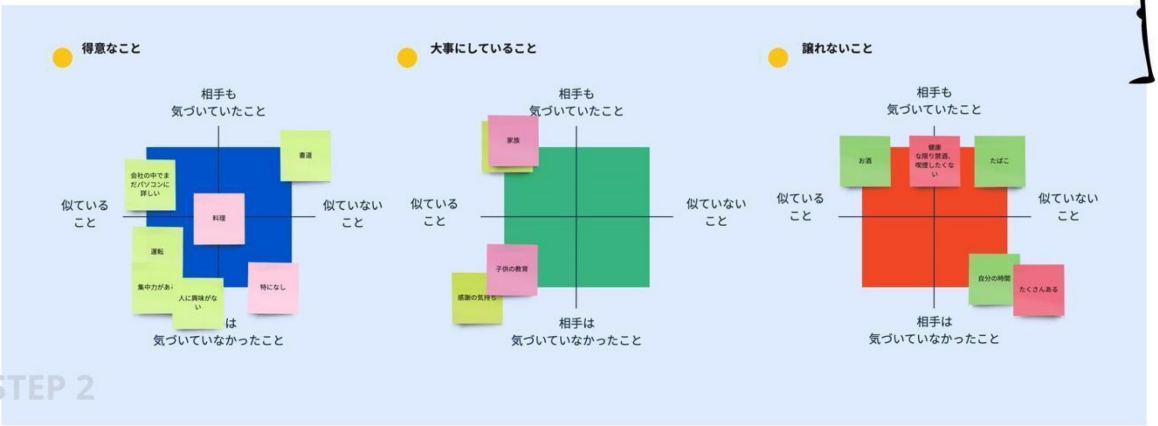


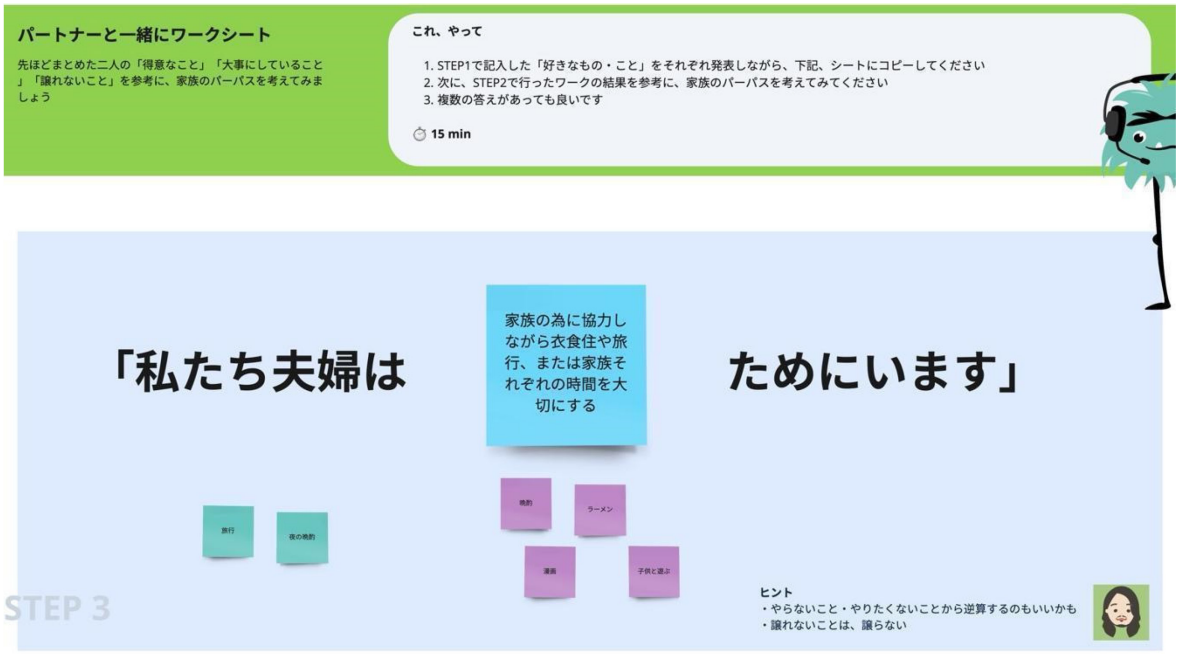

個人ワークシート
相手のシートは、なるべく見ずに
ワークを行いましょう
名前
誕生日
血液型
A
1978/3/31
B
これ、やって
1. まずは、上記に名前などを記入ください
2. 次に、右上の自身のシートの質問に答える形で、コメントを書いてください
3. 最後に、右下のあなたから見たパートナーのことについて、コメントを書いてください
15 min
STEP 1-2

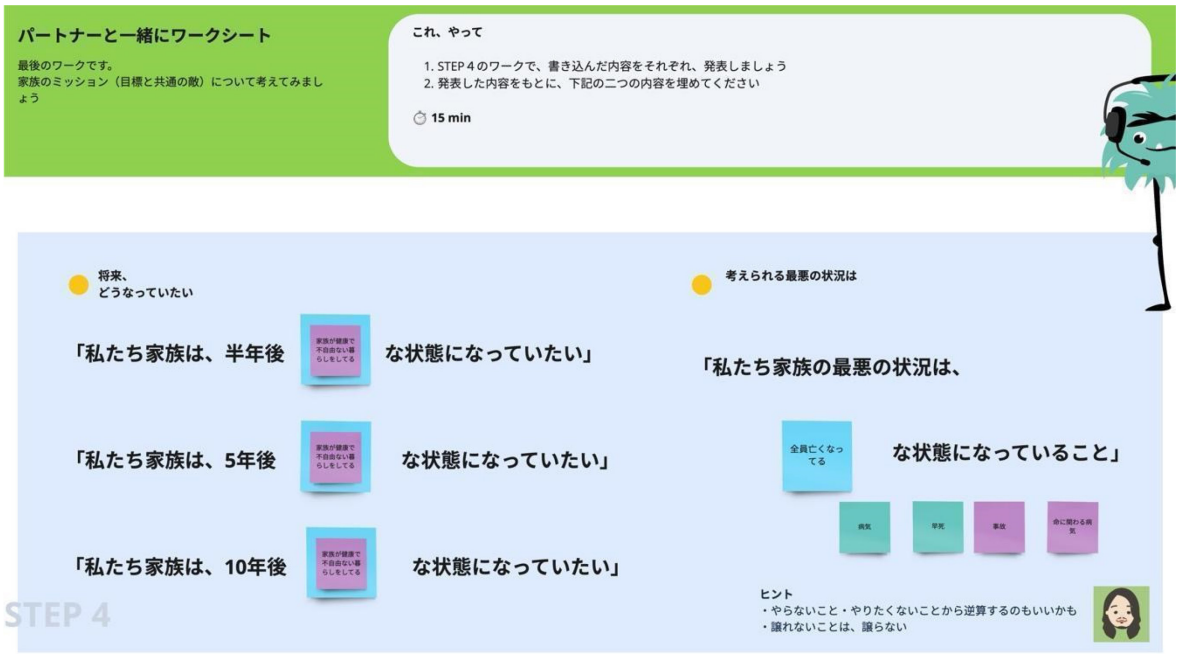

あなた
得意なこと
特になし
大事にしていること
家族
譲れないこと
好きなもの・こと
文章でも良いので書いてみよう
映画
ラーメン
コメント
漫画
子供と遊ぶ
将来、こうなっていたい
家族が健康で不自由ない暮らしをしてる
考えられる最悪の状況は
事故
命に関わる病気


あなた→パートナー
相手が得意だと思うこと
習字
料理
相手が大事にしていると思うこと
家族
子供の教育
相手が譲れないと思っていると思うこと
たくさんある


パートナーと一緒にワークシート
個人ワークをそれぞれ発表して、下記シートに
マッピングしてみましょう
これ、やって
1. STEP1で記入した「得意なこと」「大事にしていること」「譲れないこと」をそれぞれ発表しながら
下記、シートにコピーしてください
2. それぞれ、発表後に、自分から見た相手の「得意なこと」「大事にしていること」「譲れないこと」も発表してください
3. 最後に、シートにマッピングを行なってください
15 min


得意なこと
相手も
気づいていたこと
似ている
こと
似ていない
こと
相手は
気づいていなかったこと
書道
会社の中でまだパソコンに詳しい
料理
運転
集中力がある
人に興味がない
特になし
大事にしていること
家族
子供の教育
譲れないこと
お酒
たばこ
自分の時間
たくさんある
STEP 2


パートナーと一緒にワークシート
先ほどまとめた二人の「得意なこと」「大事にしていること」「譲れないこと」を参考に、家族のパーパスを考えてみましょう
これ、やって
1. STEP1で記入した「好きなもの・こと」をそれぞれ発表しながら、下記、シートにコピーしてください
2. 次に、STEP2で行ったワークの結果を参考に、家族のパーパスを考えてみてください
3. 複数の答えがあっても良いです
15 min
「私たち夫婦は
家族の為に協力しながら衣食住や旅行、または家族それぞれの時間を大切にする
ためにいます」
旅行
夜の晩酌
晩酌
ラーメン
漫画
子供と遊ぶ
STEP 3
ヒント
・やらないこと・やりたくないことから逆算するのもいいかも
・譲れないことは、譲らない


パートナーと一緒にワークシート
最後のワークです。
家族のミッション（目標と共通の敵）について考えてみましょう
これ、やって
1. STEP４のワークで、書き込んだ内容をそれぞれ、発表しましょう
2. 発表した内容をもとに、下記の二つの内容を埋めてください
15 min
将来、
どうなっていたい
「私たち家族は、半年後
家族が健康で不自由ない暮らしをしてる
な状態になっていたい」
「私たち家族は、5年後
家族が健康で不自由ない暮らしをしてる
な状態になっていたい」
「私たち家族は、10年後
家族が健康で不自由ない暮らしをしてる
な状態になっていたい」
STEP 4
考えられる最悪の状況は
「私たち家族の最悪の状況は、
全員亡くなってる
な状態になっていること」
病気
早死
事故
命に関わる病気
ヒント
・やらないこと・やりたくないことから逆算するのもいいかも
・譲れないことは、譲らない

事例２

Ver.2.0：2023/01/10

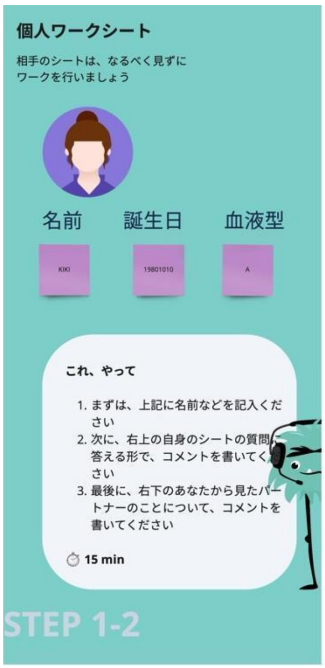
DATE 2023/1/15

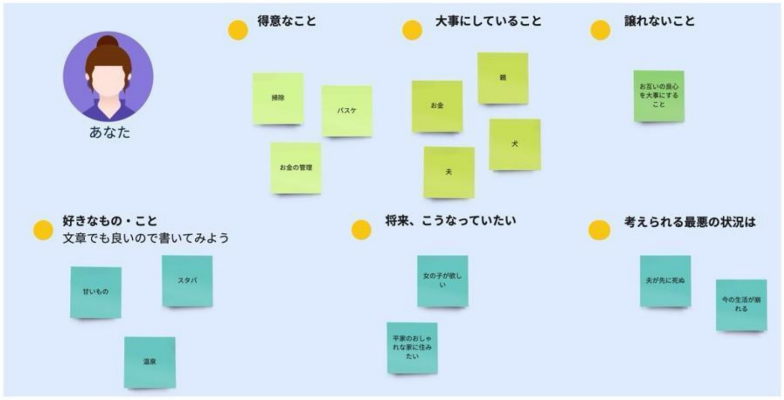
夫婦ビジョン創出ワークショップ

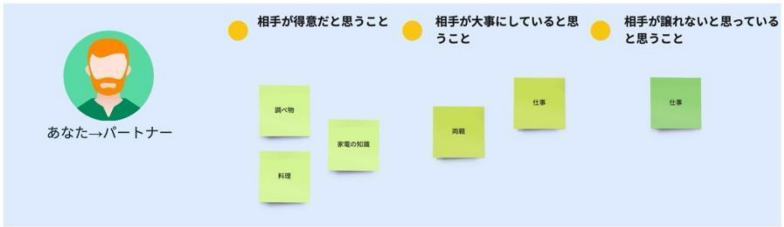
⏱ Time
60 min

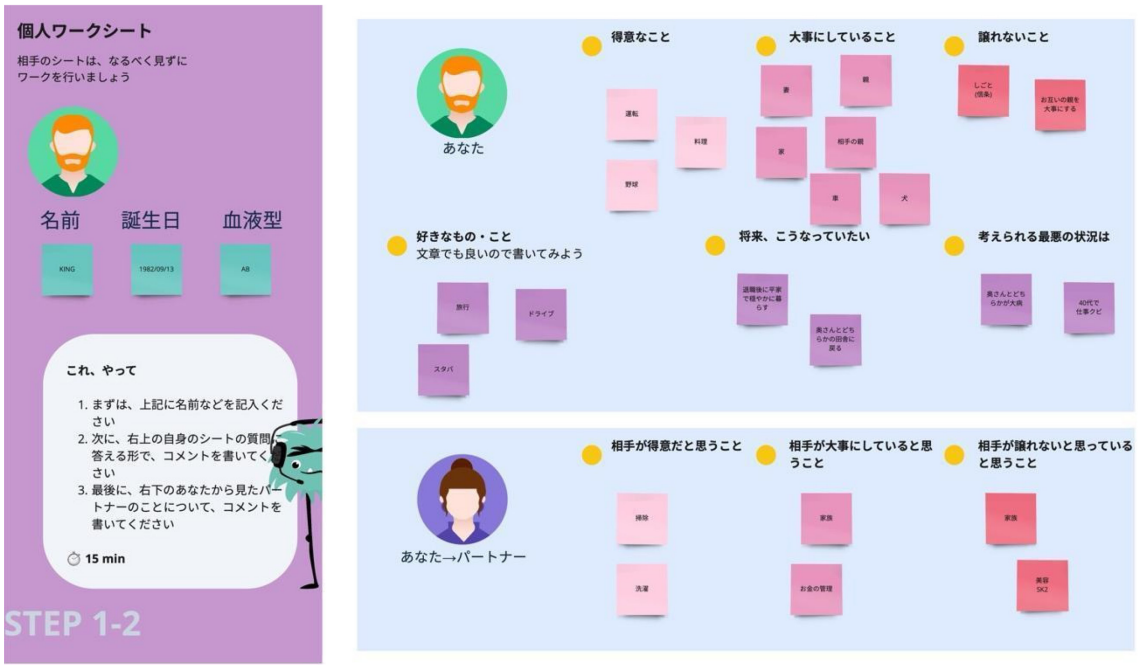
参加者
KING
KIKI

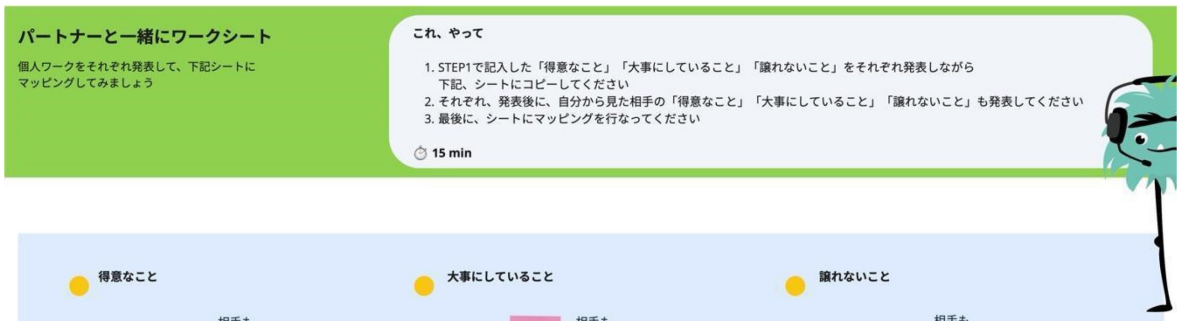
ファシリテーター
Masatoyo TAKEBAYASHI

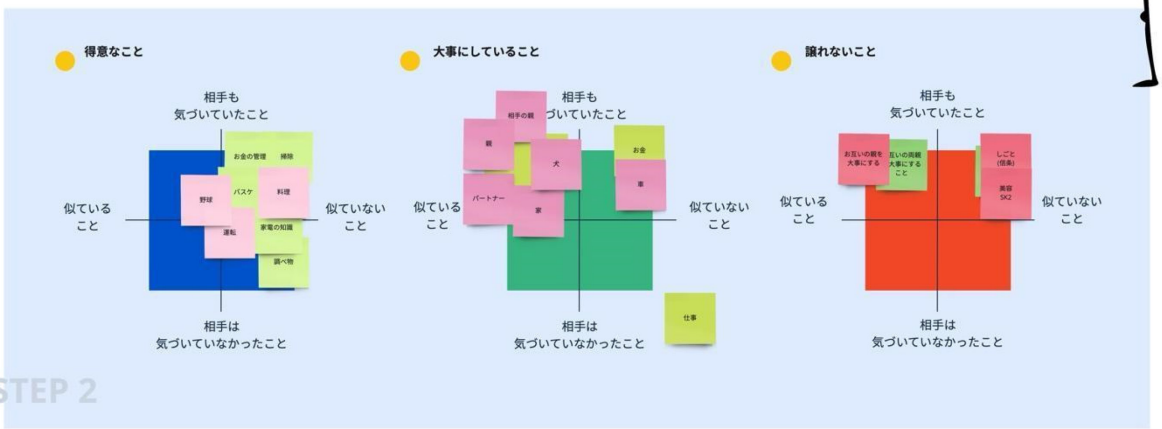


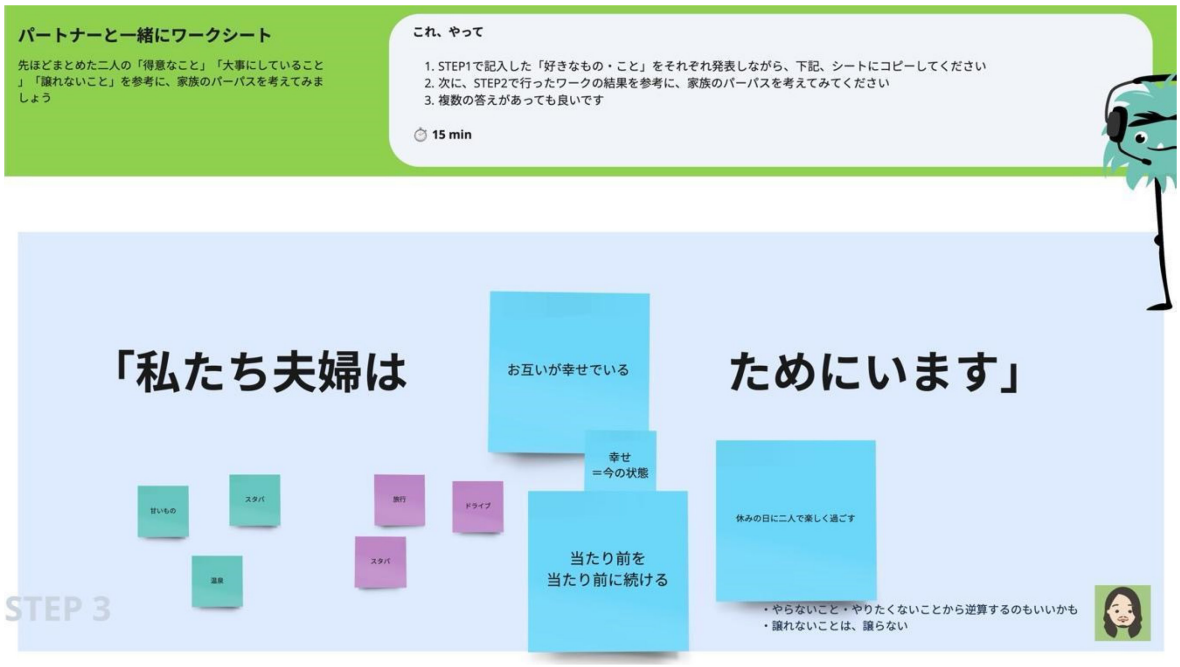


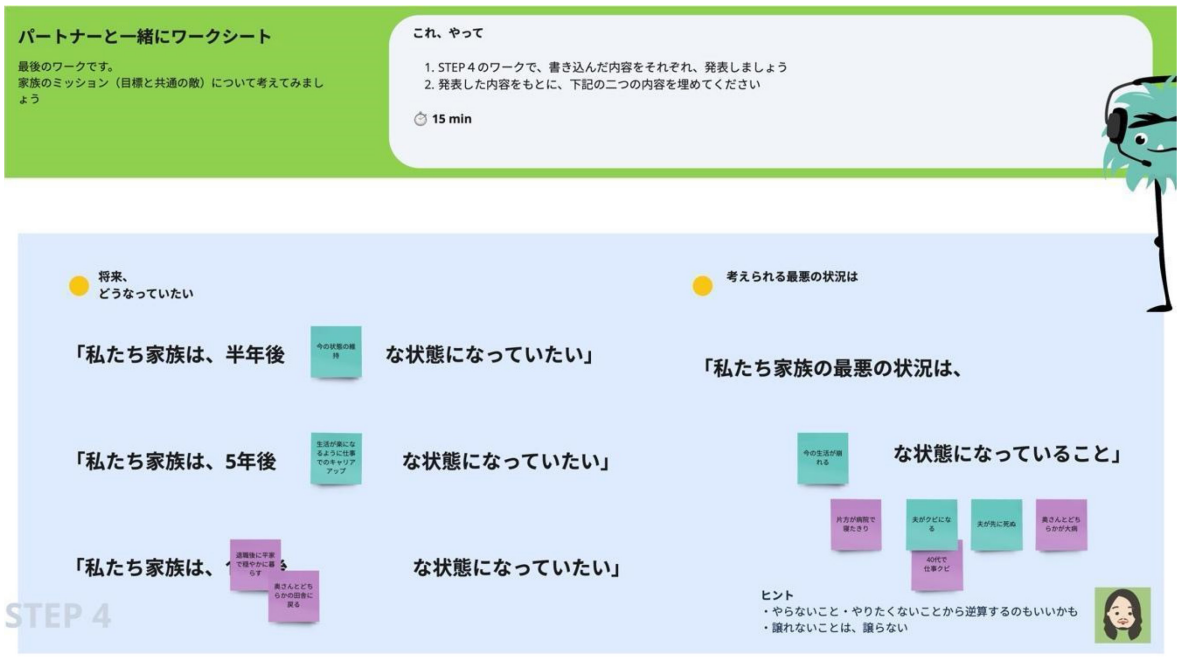



個人ワークシート
相手のシートは、なるべく見ずに
ワークを行いましょう
名前
誕生日
血液型
KING
1982/09/13
AB
これ、やって
1. まずは、上記に名前などを記入ください
2. 次に、右上の自身のシートの質問に答える形で、コメントを書いてください
3. 最後に、右下のあなたから見たパートナーのことについて、コメントを書いてください
15 min
STEP 1-2
あなた
得意なこと
大事にしていること
譲れないこと
好きなもの・こと
文章でも良いので書いてみよう
将来、こうなっていたい
考えられる最悪の状況は
あなた→パートナー
相手が得意だと思うこと
相手が大事にしていると思うこと
相手が譲れないと思っていると思うこと

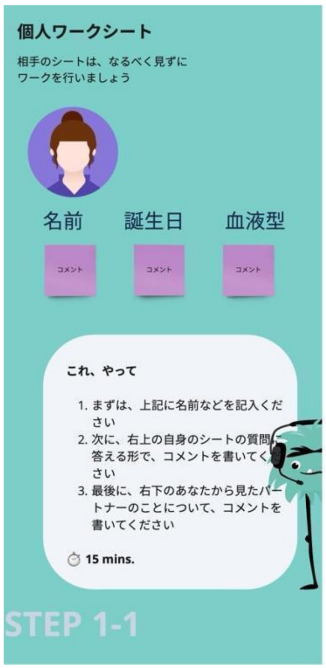

パートナーと一緒にワークシート
個人ワークをそれぞれ発表して、下記シートに
マッピングしてみましょう
これ、やって
1. STEP1で記入した「得意なこと」「大事にしていること」「譲れないこと」をそれぞれ発表しながら
下記、シートにコピーしてください
2. それぞれ、発表後に、自分から見た相手の「得意なこと」「大事にしていること」「譲れないこと」も発表してください
3. 最後に、シートにマッピングを行なってください
15 min

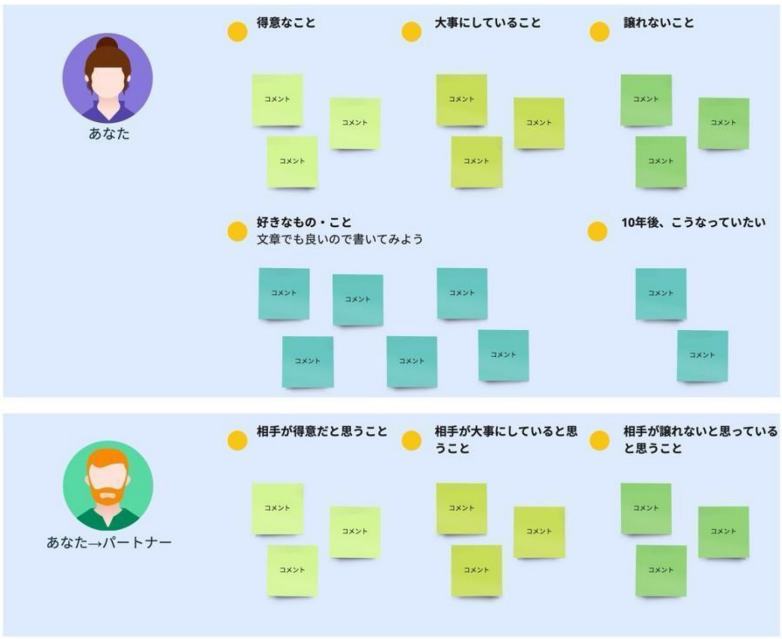

得意なこと
大事にしていること
譲れないこと
相手も
気づいていたこと
似ている
こと
似ていない
こと
相手は
気づいていなかったこと
STEP 2

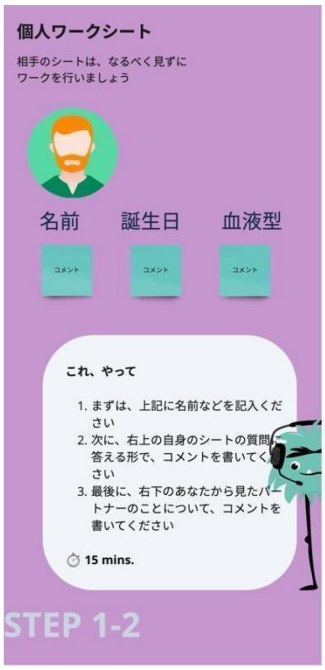

パートナーと一緒にワークシート
先ほどまとめた二人の「得意なこと」「大事にしていること」「譲れないこと」を参考に、家族のパーパスを考えてみましょう
これ、やって
1. STEP1で記入した「好きなもの・こと」をそれぞれ発表しながら、下記、シートにコピーしてください
2. 次に、STEP2で行ったワークの結果を参考に、家族のパーパスを考えてみてください
3. 複数の答えがあっても良いです
15 min
「私たち夫婦は
お互いが幸せでいる
ためにいます」
幸せ
＝今の状態
当たり前を
当たり前に続ける
休みの日に二人で楽しく過ごす
甘いもの
スタバ
温泉
旅行
ドライブ
スタバ
STEP 3
・やらないこと・やりたくないことから逆算するのもいいかも
・譲れないことは、譲らない

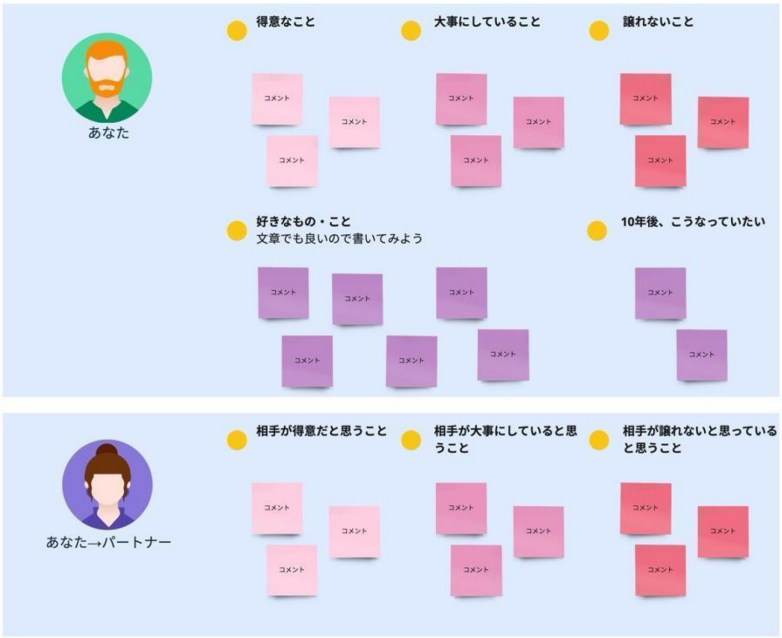

パートナーと一緒にワークシート
最後のワークです。
家族のミッション（目標と共通の敵）について考えてみましょう
これ、やって
1. STEP４のワークで、書き込んだ内容をそれぞれ、発表しましょう
2. 発表した内容をもとに、下記の二つの内容を埋めてください
15 min
将来、
どうなっていたい
「私たち家族は、半年後
今の状態の維持
な状態になっていたい」
「私たち家族は、5年後
生活が楽になるように仕事でのキャリアアップ
な状態になっていたい」
「私たち家族は、
な状態になっていたい」
考えられる最悪の状況は
「私たち家族の最悪の状況は、
今の生活が崩れる
な状態になっていること」
片方が病院で寝たきり
夫がクビになる
夫が先に死ぬ
奥さんとどちらかが大病
40代で仕事クビ
STEP 4
ヒント
・やらないこと・やりたくないことから逆算するのもいいかも
・譲れないことは、譲らない

事例 3


個人ワークシート
相手のシートは、なるべく見ずに
ワークを行いましょう
名前
誕生日
血液型
コメント
これ、やって
1. まずは、上記に名前などを記入ください
2. 次に、右上の自身のシートの質問に答える形で、コメントを書いてください
3. 最後に、右下のあなたから見たパートナーのことについて、コメントを書いてください
15 mins.
STEP 1-1


あなた
得意なこと
大事にしていること
譲れないこと
好きなもの・こと
文章でも良いので書いてみよう
10年後、こうなっていたい
コメント
あなた→パートナー
相手が得意だと思うこと
相手が大事にしていると思うこと
相手が譲れないと思っていると思うこと


個人ワークシート
相手のシートは、なるべく見ずに
ワークを行いましょう
名前
誕生日
血液型
コメント
これ、やって
1. まずは、上記に名前などを記入ください
2. 次に、右上の自身のシートの質問に答える形で、コメントを書いてください
3. 最後に、右下のあなたから見たパートナーのことについて、コメントを書いてください
15 mins.
STEP 1-2


あなた
得意なこと
大事にしていること
譲れないこと
好きなもの・こと
文章でも良いので書いてみよう
10年後、こうなっていたい
コメント
あなた→パートナー
相手が得意だと思うこと
相手が大事にしていると思うこと
相手が譲れないと思っていると思うこと

パートナーと一緒にワークシート

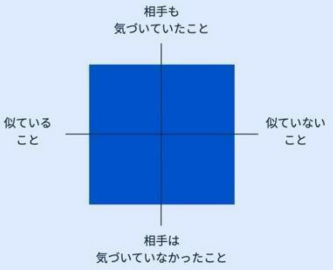
個人ワークをそれぞれ発表して、下記シートに
マッピングしてみましょう

これ、やって

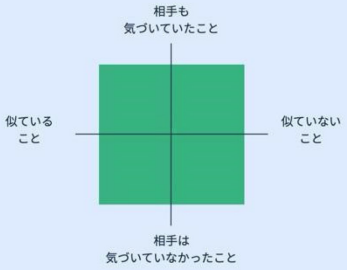
1. STEP1で記入した「得意なこと」「大事にしていること」「譲れないこと」をそれぞれ発表しながら
   下記、シートにコピーしてください
2. それぞれ、発表後に、自分から見た相手の「得意なこと」「大事にしていること」「譲れないこと」も発表してください
3. 最後に、シートにマッピングを行なってください

15 mins.

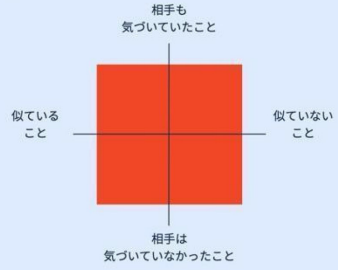
得意なこと



大事にしていること



譲れないこと



STEP 2

パートナーと一緒にワークシート

先ほどまとめた二人の「得意なこと」「大事にしていること」「譲れないこと」を参考に、家族のパーパスを考えてみましょう

これ、やって

1. STEP1で記入した「好きなもの・こと」をそれぞれ発表しながら、下記、シートにコピーしてください
2. 次に、STEP2で行ったワークの結果を参考に、家族のパーパスを考えてみてください
3. 複数の答えがあっても良いので、

15 mins.

「私たち家族は　コメント　のためにいます」

STEP 3

ヒント
・やらないこと・やりたくないことから逆算するのもいいかも
・譲れないことは、譲らない

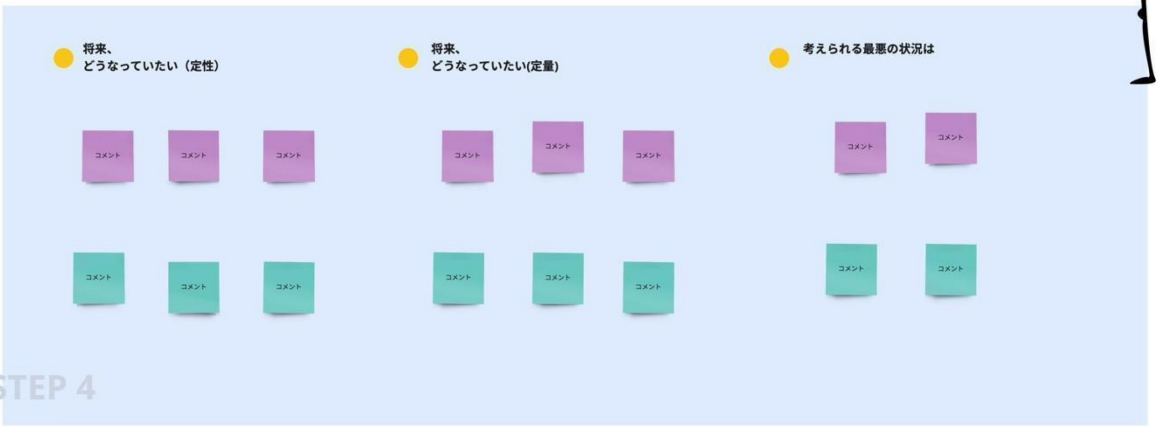
パートナーと一緒にワークシート

相手の答えを見ながら、行っても良いですが、違う角度から、考えるなどチャレンジしましょう

これ、やって

1. 将来どうなっていたいか、定性的、定量的に書き込んでください
   どのくらい未来かはお任せしますが、〇年後などと書いていただくと次のワークがやりやすいです
2. 考えられる、最悪の状況を書いてみてください

15 mins.



STEP 4

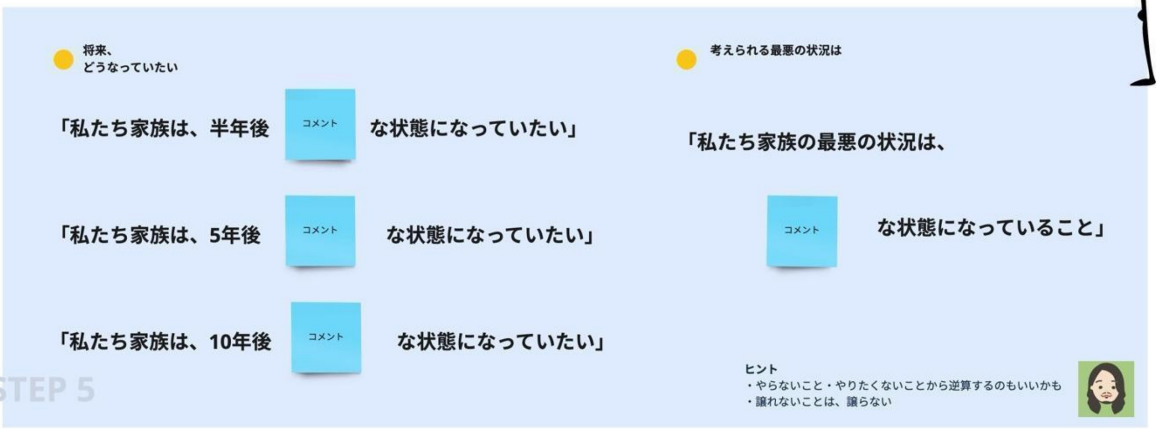
パートナーと一緒にワークシート

最後のワークです。
家族のミッション（目標と共通の敵）について考えてみましょう

これ、やって

1. STEP 4 のワークで、書き込んだ内容をそれぞれ、発表しましょう
2. 発表した内容をもとに、下記の二つの内容を埋めてください

15 mins.



STEP 5